

# 彙 報

2016年(平成28年)4月～2017年(平成29年)3月

## 研究状況 (2016年度)

### 公募型研究班

#### 東アジア伝統医療文化の多角的考察

班長 大形 徹

研究期間 2014年04月～2017年03月(3年度目)

研究実施状況

東アジア伝統医療の全体像とその文化的特色を構造的に把握するために、医者、鍼灸師、薬剤師、医学史研究者に加えて諸領域の人文科学研究者を結集して研究会を開催した。今年度は、鍼灸師、漢方家の中心となる団体組織である温知会、三考塾、杉山真伝流遺徳顕彰会の中心リーダーを招聘し、創始者の矢数道明氏、寺師睦宗氏や杉山和一関連資料に関する話題を提供してもらい、千葉大学医学部で漢方教育を行う和漢診療科長の並木隆雄氏に現状や問題点を報告してもらうなど、現代医療における鍼灸医療、漢方薬の現状や可能性を多角的に考察した。また、科学史、医学史、道教思想の見地からも伝統医療文化の枠組みに考察を試みた。研究を推進するに当たっては、国内外の研究機関との連携を深め、共同研究を推進する体制作りを行った。国内においては、伝統医学の研究プロジェクトを推進する北里研究所東洋医学総合研究所、国文学研究資料館(研究リーダー、陳捷教授)と合同で研究を行った。中医学、韓医学の研究機関とは、4月には韓国から客員教授として招聘した安相佑氏(韓国韓医学研究院責任研

究員)を中心に韓医学の研究者を招聘して国際ワークショップを開催し、6月には兵庫医科大学中医薬孔子学院との共催イベントを実施した。

研究班員

所内:高井たかね、武田時昌、Bill Mak(麦文彪)

学内:小泉昭夫(医学研究科教授)、原田浩二(医学研究科・准教授)

学外:安部郁子(財研医会・研究員)、家本旬二(関西医療学園専門学校・教員(大阪府立大学人間社会学研究科修士課程))、池内早紀子(漢方薬店経営(大阪府立大学人間社会学研究科修士課程))、王財源(関西医療大学 教授)、桐浴眞智子(大阪医科大学)、島山奈緒子(明治国際医療大学大学院O.D.)、多田伊織(鈴鹿医療大学・非常勤講師)、中吉隆之(関西医療大学)、葉山美知子(鎌倉早見美容芸術専門学校)、平地治美(千葉大学)、前田その子(前田鍼灸院)、松岡尚則(財研医会)、真柳誠(茨城大学)、三鬼丈知(近畿大学・非常勤講師)、横山浩之(森ノ宮医療学園)、梁嶸(北京中医薬大学)、渡邊真弓(新潟大学)、奈良上眞(大阪医療技術学園専門学校)、趙ウニル(京都大学)、森村謙一(薬学博士)、岩間眞知子(日中茶文化研究家)、半井英江(京都医療文化サロン協賛会・代表)、相川佳子(奈良女子大学)、今井環(大阪府立大学)、閻淑珍(帝京大学)、郭秀梅(順天堂大学)、古藤友子(国際基督教大学)、酒井シヅ(順天堂大学)、坂出祥伸(関西大学・森ノ宮医

療大学), 館野正美 (日本大学), 長野仁 (森ノ宮医療大学), 名和敏光 (山梨県立大学), 藁輪圭一郎 (京都大学), 宮崎順子 (関西大学), 宮島一彦 (同志社大学), 渡邊賢一 (関西大学), 松木宣嘉 (四国医療専門学校), 大平桂一 (大阪府立大学), 木崎香織 (大阪府立大学), 林みどり (関西医療大学), 石井行雄 (北海道教育大学釧路校), 梁 永宣 (兵庫医科大学)

研究実施内容

2016 年

- 4月17日 日韓伝統医学の交流と比較—自国化と漢方復興  
基調講演「朝鮮医書誌の新展開」  
発表者：安相 佑  
(韓国韓医学研究院・責任研究員,  
京都大学人文科学研究所・  
招聘客員教授)  
第1部：〈韓国医学史研究の射程：自国化の道〉  
司会：大形 徹 (大阪府立大学・教授  
『医方類聚』文化事業方案研究)  
発表者：車 雄碩 (慶熙大学校附設  
晴崗韓医学歴史文化  
研究センター・センター長)  
『郷薬集成方』と『医方類聚』時代の  
韓国医学 発表者：姜 延錫  
(円光大学校韓医科大学  
医史学教室・副教授)  
朝鮮の食治伝統と発展過程  
発表者：金 賢卿  
(慶熙大学校韓医科大学  
医史学教室・兼任講師)  
第2部：〈日韓における伝統医学の復興と現状〉  
司会：大形 徹  
(大阪府立大学・教授)  
矢数道明と漢方復興運動  
発表者：矢数芳英  
(温知堂矢数医院・副院長,  
東京医科大学病院麻酔科・  
兼任講師)

韓医学からみた伝統医学復興の諸問題

発表者：金 南一

(慶熙大学校韓医科大学・学長)

第3部：〈朝鮮古医書の伝来と日韓医学交流〉  
司会：武田時昌

(京都大学人文科学研究所・教授)

6月4日 伝統医療文化国際ワークショップ  
2016-6 (学校法人兵庫医科大学中医薬孔子学院との共催イベント)  
中国初の生理学・医学ノーベル賞—  
中医薬古典からの啓示

発表者：戴 毅

(中医薬孔子学院・副院長,

兵庫医療大学薬学部・教授)

古代における馬医鍼灸学について

発表者：中吉隆之

(関西医療大学・講師)

身体技法としての“虚心実腹”

発表者：野村英登

(二松学舎大学・非常勤講師)

易筋経と中国養生 発表者：陳 邦徳

(台湾007人体健康会社・社長,

楊氏老架大極拳田八代伝人)

司会：梁永 宣

(学校法人兵庫医科大学中

医薬孔子学院・副院長,

北京中医薬大学・教授)

9月4日 現代医学のなかの漢方

不妊治療の最前線—寺師睦宗先生の

語る漢方治療 発表者：武田時昌

(京都大学人文科学研究所・教授)

コメンテーター：西巻明彦

(日本歯科大学新潟生命歯学部医の

博物館・副館長, 客員教授,

西巻歯科院・院長)

漢方医学にみる具体的地盤の探究

発表者：西巻明彦

(日本歯科大学新潟生命歯学部医の

博物館・副館長, 客員教授,

西巻歯科院・院長)

大学における漢方医学教育の現状と問

	<p>題点 発表者：並木隆雄 (千葉大学医学部附属病院 和漢診療科・科長)</p>	<p>日本宗教史像の再構築 班長 大谷栄一 研究期間 2014年04月-2017年03月(3年度目) 研究実施状況</p>
10月2日	<p>A Map of Melancholy in China: The Networks that Chocolate Created 発表者：Beatriz Puente-Ballesteros (澳門大学人文社科樓歴史系・ Assistant Professor) コメンテーター：久保輝幸 (武漢工程大学外語学院・校聘教授) 当道座と杉山流鍼灸あん摩術の成立と 系譜 発表者：大浦慈観 (杉山真伝流遺徳顕彰会・理事, 北里研究所東洋医学総合研究医史学 研究部・客員研究員)</p>	<p>本年度は以下の9回の研究会を実施した。「日本 宗教史における「神と仏」(4/30)「安丸宗教史を 読みなおす」(7/30)「図書館と宗教」(8/10)「メ ディアと宗教の1930年代」(8/19)「日本仏教史像 を解きほぐす」(10/23)「高取正男を読みなおす」 (12/11)「日本心霊から人文書院へ」(12/17)「総合 討論：近代と秘教ネットワークー研究の今と未来 ー」(3/11)「日本の近代化と宗教」を捉え直すー 「日本宗教史像の再構築」のためにー」(3/20)こ のほか、最終報告書を編集作業を進めている。 研究班員 所内：石井美保、菊地暁、瀬戸口明久、田中雅一、 藤原辰史 学外：大谷栄一(佛教学部)、板井正斉(皇學館 大学)、一色哲(帝京科学大学)、岩田真美 (龍谷大学)、上野大輔(慶応義塾大学)、 碧海寿広(東洋大学)、岡田正彦(天理大 学)、川瀬貴也(京都府立大学)、栗田英彦 (日本学術振興会)、G. Clinton Godart(北 海道大学大学院)、近藤俊太郎(本願寺史 料研究所)、佐々充昭(立命館大学)、佐藤 文子(本願寺史料研究所)、角南聡一郎 (元興寺文化財研究所)、田中悟(神戸大 学)、塚田穂高(國學院大學)、對馬路人 (関西学院大学)、土居浩(ものづくり大 学)、永岡崇(日本学術振興会)、長谷川雄 高(大谷大学)、林淳(愛知学院大学)、福 島栄寿(大谷大学)、松金直美(真宗大谷 派教学研究部)、水内勇太(同志社大学)、 吉永進一(国立舞鶴工業高等専門学校)、 渡部圭一(琵琶湖博物館)、金泰勲(龍谷 大学)</p>
2017年	<p>2月5日 安保徹の世界 「こころ」と「からだ」をつなぐ健康 学ー「白血球の自律神経支配」の発見 と2つのエネルギー産生系の連関 発表者：渡邊真弓 (新潟大学医歯学総合病院 医療情報部) centenarianを免疫学から考える 発表者：富山智香子 (新潟大学医学部保健学科) 「こころ」と「からだ」をつなぐ健康 学・補足ー臨床の写真とデータ 発表者：渡邊真弓 (新潟大学医歯学総合病院医療情報部) 司会：七里佳代 (新潟大学保健管理センター)</p>	<p>研究実施内容 2016年 4月23日 日本宗教史における「神と仏」 発表者：鈴木正崇 (慶応義塾大学名誉教授) 7月30日 安丸宗教史を読みなおす</p>
3月5日	<p>『有林福田方』『悲田方』について 発表者：浦山きか (森ノ宮医療大学・客員教授) 六部定位脈診について 発表者：浦山久嗣 (赤門鍼灸柔整専門学校・専任教員) 伝統医学の国際標準化をめぐる一 名辞を欲する身体 発表者：東郷俊宏 (東京有明医療大学・教授)</p>	

- 「近代」批判の方法と安丸思想史  
 発表者：繁田真爾（明星学園）  
 モノで読み解く『神々の明治維新』  
 ー 亡失物と残存物を考える ー  
 発表者：角南聡一郎  
 （元興寺文化財研究所）
- 『神々の明治維新』と近代南都仏教史  
 発表者：黒岩康博（天理大学）
- 近世社会・如来教から安丸良夫『出口  
 なお』を相対化する  
 発表者：石原 和  
 （立命館大学大学院）
- 誰かについて、語るということー『出  
 口なお』から考える、個の現代史叙述  
 とその方法ー 発表者：西井麻里奈  
 （大阪大学大学院）
- 近代初頭のキリスト教史における『民  
 衆』の発見ー『オーギー』と『リヴァ  
 イヴァル』をめぐるー  
 発表者：一色 哲（帝京科学大学）  
 司会：大谷栄一（佛教大学）  
 発表者：永岡 崇（日本学術振興会）
- 8月10日 図書館と宗教  
 近代日本の図書館と宗教：公共図書館  
 を中心に  
 発表者：鈴木宏宗（国立国会図書館）  
 皇學館大学附属図書館の取り組みにつ  
 いてー 建学の精神と図書館活動ー  
 発表者：岡野裕行（皇學館大学）  
 金光図書館の存立の意義ー 布教興学  
 に資し公共に奉仕するー  
 発表者：金光英子（金光図書館）  
 コメンテーター：小林昌樹  
 （国立国会図書館）  
 コメンテーター：森 洋介（無所属）  
 司会：菊地 暁（京都大学）
- 8月19日 宗教とメディアの1930年代  
 1930年代の宗教言説：反宗教と宗教  
 復興を中心に 発表者：近藤俊太郎  
 （本願寺史料研究所）  
 1930年代前半の大本と文書メディア  
 発表者：對馬路人（関西学院大学）  
 1930年代の新宗教と展示という実践  
 発表者：永岡 崇（日本学術振興会）  
 宗教運動としての出版：「生長の家」  
 をめぐって 発表者：栗田英彦  
 （日本学術振興会）  
 コメンテーター：吉永進一  
 （舞鶴工業高等専高等専門学校）  
 司会：川瀬貴也（京都府立大学）
- 10月23日 日本仏教史像を解きほぐす  
 鎌倉仏教論の焦点 発表者：坪井 剛  
 （京都造形芸術大学）  
 近世仏教衰微史観の深層  
 発表者：上野大輔（慶應義塾大学）  
 私度僧若しくは僧尼令問題  
 発表者：佐藤文子（佛教大学）  
 司会：松金直美  
 （真宗大谷派教学研究所）
- 12月11日 高取正男を読みなおす  
 「贖罪」の共同体、「ワタクシ」の宗教  
 発表者：黛 友明（大阪大学大学院）  
 高取正男のモノ論ー 納戸神再考ー  
 発表者：土居 浩（ものづくり大学）  
 『神道の成立』と黒田俊雄  
 発表者：林 淳（愛知学院大）  
 コメンテーター：西村 明  
 （東京大学）  
 コメンテーター：関 一敏  
 （九州大学名誉教授）  
 コメンテーター：中牧弘允  
 （国立民族学博物館名誉教授）  
 司会：菊地 暁（京都大学）
- 12月17日 日本心霊学会から人文書院へ 新資料  
 調査の中間報告  
 霊肉救済・霊俗融合ー 精神療法家、  
 渡辺藤交 発表者：吉永進一  
 （国立舞鶴工業高等専高等専門学校）  
 福来友吉と日本心霊学会  
 発表者：一柳廣孝  
 （横浜国立大学）  
 日本心霊学会と伝統仏教ー 雑誌『日

本心霊』の調査から  
 発表者：栗田英彦  
 (日本学術振興会)  
 野村瑞城について私の知ってる2,3  
 の事柄 発表者：菊地 暁 (京都大学)  
 編集者清水正光と戦前期人文書院にお  
 ける文学関係出版  
 発表者：石原深予 (神戸学院大学)  
 人文書院100年のあゆみ  
 発表者：佐藤良憲 (人文書院)

2017年

3月11日 総合討論：近代と秘教ネットワー  
 ー研究の今と未来ー  
 司会：赤井敏夫 (神戸学院大学)  
 3月20日 「日本の近代化と宗教」を捉え直すー  
 「日本宗教史像の再構築」のためにー  
 日本宗教史研究におけるウェーバー受  
 容の批判的検討  
 発表者：大谷栄一 (佛教大学)  
 モダニティとしての新宗教ー迷信・  
 宗教・帝国  
 発表者：永岡崇 日本学術振興会  
 いわゆる「民間信仰班」の三年間ー  
 「近代」の踏まえ方と乗り越え方ー  
 発表者：菊地 暁 (京都大学)  
 「近代(的)仏教」への投企ー植民地  
 朝鮮における仏教を題材に  
 発表者：川瀬貴也 (京都府立大学)  
 コメンテーター：對馬路人  
 (関西学院大学)  
 司会：福島栄寿 (大谷大学)

チベット・ヒマラヤ文明の史的展開の学際的研究

班長 岩尾 一史

研究期間 2015年4月ー2018年3月(2年度目)

研究実施状況

[研究会と研究報告]：本年度は合計で9回の研究  
 会を行うことができた。班員それぞれの研究関心に  
 沿った研究報告を依頼し、歴史学、文化人類学、言  
 語学の各分野から、古代～現在にいたるまでのチ  
 ベット文化の諸相について最先端の研究報告を聞く

ことができた。本年度の特徴として報告者の半数が  
 関西以外の研究者によるものであり、国内における  
 研究者の交流を促進することにも成功したといえる。  
 また議論の時間を出来るだけ多く取ったことにより、  
 異分野からの情報提供・意見交換をより活発に行う  
 ことにも成功した。各回の具体的な内容は以下の実  
 施内容を参照されたい。

[成果報告の打ち合わせ]：本研究班の成果報告を  
 どのように公開し出版すべきかについて、研究会上  
 において打ち合わせを複数回行った。

[シンポジウムを開催]：9月17日(土)に東京  
 外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所にて  
 「チベット文明のレジリエンス」と題し、公開型シ  
 ンポジウムを開催した。

研究班員

所内：池田巧, 稲葉穰, 中西竜也

学内：熊谷誠慈 (こころの未来研究センター),  
 マルク=アンリ・デロッシュ (総合生存学  
 館), 安田章紀 (文学部), 池尻陽子 (こ  
 ころの未来研究センター)

学外：武内紹人 (神戸市外国語大学), 西田愛  
 (神戸市外国語大学), 大川謙作 (日本大  
 学), 別所裕介 (広島大学), 星泉 (東京  
 外国語大学), 根本裕史 (広島大学), 海  
 老原志穂 (東京外国語大学), 山本明志  
 (大阪国際大学), 小西賢吾 (金沢星稜大  
 学), 山本達也 (静岡大学), 小野田俊蔵  
 (佛教大学), 三宅伸一郎 (大谷大学), 小  
 松原ゆり (明治大学), 村上大輔 (駿河台  
 大学), 井内真帆 (神戸市外国語大学),  
 加納和雄 (高野山大学), 大羽恵美 (金沢  
 大学)

研究実施内容

2016年

4月24日 ブータンの諸言語と言語調査

発表者：池田 巧

5月21日 18世紀～19世紀の清・チベット・ネ  
 パール関係 発表者：小松原ゆり

(明治大学・非常勤)

6月11日 タウンのモンパ社会における竜神信仰  
 と文化復興ーシェルヌツ村の事例

- を中心に— 発表者：長岡 慶 3月18日 漢語・チベット語バイリンガル史料からみた明代東アジアの異言語・異文化接触：正統13年(1448)「重修涼州広善寺碑」の検討を中心に  
(アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程)  
東ブータンのシャルチョッパ社会におけるアマ・ジョモ信仰 発表者：伴真一郎 (大谷大学・非常勤)
- 7月9日 辛亥革命前後、ダライラマ13世の対日本外交 発表者：渡邊美穂子 (同志社大学グローバルスタディーズ研究科博士課程)
- 9月16日 古代チベットにおける牧民の管理と土地 発表者：岩尾一史 (神戸市外国語大学・非常勤)
- 9月17日 チベット文明のレジリエンス チベット史の転換期としての仏教伝播 発表者：井内真帆 (神戸市外国語大学・非常勤)
- ガンデンポタンの成立と周辺諸国への波及 発表者：小松原ゆり (明治大学・非常勤)
- ポスト王政期ネパールにおける“仏教の政治”とチベット仏教の社会進出 発表者：別所裕介 (広島大学)
- チベット古典文学の再創造 発表者：根本裕史 (広島大学)
- ボン教のレジリエンス：人・自然・思想のつながりから 発表者：小西賢吾 (金沢星稷大学)
- 10月15日 内秘書院モンゴル文檔案にみる17世紀アムド東部のゲルク派諸寺院と清朝 発表者：池尻陽子 学振特別研究員 RPD (京都大学)
- 11月26日 ドゥク派開祖ツァンパ・ギャレー(1161-1211)の伝記研究：ブータン仏教とそのルーツ 発表者：熊谷誠慈 (こころの未来研究センター)
- 12月17日 アムド、バルティ、その他のチベット語 発表者：海老原志穂 (東京外国語大学・非常勤)
- 2017年
- オーラル・ヒストリー・アーカイヴスによる戦後日本映画史の再構築 班長 谷川建司  
研究期間 2016年4月-2019年3月(1年度目)  
研究実施状況 三年計画の初年度である本年度は、まず年度初めの4月30日(土)・5月1日(日)の二日間の日程で第一回研究会を開催、初日には、本研究会で集積していくオーラル・ヒストリーというものが映画文化の創出に関わったあらゆる側面の人々に及ぶべきだという実例を示す形で、代表者である谷川建司が「いちエキストラが観た黒澤明の撮影現場」と題した発表を行い、二日目には今後の研究会の在り方についての議論を行った。その結果、次回以降の研究会は原則として二日間とし、土曜日にはゲスト(主として映画が完成してから観客の目に触れるまでの段階で何らかの形でかかわった人を中心とする)を招いて共同でインタビューを行い、日曜日には研究発表なり議論なりを行っていくこととなった。第二回研究会は8月6日(土)・7日(日)に行われ、初日には伊藤政昭史(京都映画センター顧問)をゲストに迎え京都における映画の鑑賞運動・上映活動・製作活動の歴史について話を伺い、翌日はそれを受けてさらに今後の具体的な方針について議論を重ねた結果、伊藤氏もエキストラの手配などにかかわったという、京都府・京都市が著作権を持つ時代劇映画『祇園祭』(1968年)という作品のことを研究会として調査していくこととし、メンバーが持ち回りで次回以降の研究会の二日目に報告を行っていくこととなった。第三回研究会は9月23日(金)の一日のみの開催とし、ゲストには東映で長年ポスターなどの惹目を担当してきた関根忠郎氏を招き映画会社の宣伝部の仕事について学ん

だ。また、メンバーのために京都では京都文化博物館、東京は国立近代美術館フィルムセンターの協力を得て『祇園祭』の試写を実施した。第四回研究会は11月12日(土)・13日(日)に開催され、初日には東宝系列の伊丹グリーン・ローズ劇場で特撮映画祭を企画・運営してきた山富真治氏を招き、興行の現場の立場からの話を伺い、二日目には木下千花(京都大学)、須川まり(奈良県立大学)の二名が『祇園祭』に関する報告を行った。第五回研究会は1月21日(土)・22日(日)に行われた。初日には近代映画社で雑誌「近代映画」の編集者として映画会社やその所属スターと接してきた小杉修造氏をゲストに迎えて映画会社とファン雑誌の関係について話を伺い、二日目には板倉史明(神戸大学)、木村智哉(明治学院大学)が『祇園祭』に関する報告を行った。年度末の3月15日には研究会の一環として京都文化博物館と東映京都撮影所(および太秦資料室)を見学し、オーラル・ヒストリー・アーカイヴスや『祇園祭』に関する資料をはじめとする映画関連資料の調査を行った。

#### 研究班員

所内：高木博志、岩城卓二、藤原辰史、小川佐和子、菊地暁、小野容照、高階絵里加

学内：木下千花(人間・環境学研究科)、久保豊(人間・環境学研究科)

学外：谷川建司(早稲田大学)、晏妮(日本映画大学)、板倉史朗(神戸大学大学院)、井上雅雄(立教大学)、大澤佳枝(フリーランス映画研究者)、小川順子(中部大学)、菅野優香(同志社大学)、北浦寛之(国際日本文化研究センター)、木村智哉(明治学院大学)、河野真理江(立教大学)、須川まり(奈良県立大学)、富田美香(国立近代美術館フィルムセンター)、長門洋平(国際日本文化研究センター)、中村秀之(立教大学)、西村大志(広島大学大学院)、花田史彦(京都大学大学院)

#### 研究実施内容

##### 2016年

4月30日 第1回研究会(1日目)  
いちエキストラが観た黒澤明監督の撮

影現場—『乱』のクライマックス(三の丸炎上)シーンの撮影の様子についての証言

発表者：谷川建司(早稲田大学)

5月1日 第1回研究会(2日目)  
研究会の2016年度の活動計画と3年間の長期的な活動計画について、研究会の運営方針について

発表者：谷川建司(早稲田大学)

8月6日 第2回研究会(1日目)  
伊藤正昭氏(京都映画センター顧問、株式会社シネマワーク顧問)へのインタビューと質疑応答発表者：伊藤正昭  
司会：谷川建司(早稲田大学)

8月7日 第3回研究会(2日目)  
前日のインタビューのまとめと次回の予定について。本研究会の今後の進め方について

司会：谷川建司他(早稲田大学)

9月23日 第3回研究会  
「コピーは生き物」：関根忠郎氏インタビューと質疑応答 発表者：関根忠郎  
司会：谷川建司(早稲田大学)

11月12日 第4回研究会(1日目)  
山富真治氏(前・伊丹グリーン劇場支配人)インタビューと質疑応答  
発表者：山富真治  
コメンテーター：板倉史明(神戸大学大学院)

司会：谷川建司(早稲田大学)

11月13日 第4回研究会(2日目)  
『祇園祭』へのアプローチ  
発表者：木下千花(京都大学)  
『祇園祭』と『京都新聞』記事  
発表者：須川まり(奈良県立大学)

##### 2017年

1月21日 第5回研究会(1日目)  
小杉修造氏(元・近代映画社)インタビューと質疑応答 発表者：小杉修造  
司会：谷川建司(早稲田大学)

1月22日 第5回研究会(2日目)

「京都文化博物館所蔵「伊藤大輔文庫」  
における『祇園祭』関連資料調査報  
告」 発表者：板倉史明  
(神戸大学大学院)

「時代劇スター俳優・中村錦之助の経  
歴から見た映画『祇園祭』製作の意  
義」 発表者：木村智哉  
(明治学院大学)

3月15日 京都文化博物館および東映京都撮影所  
(および同社太秦資料室)の見学・調  
査

人文学研究部

環世界の人文学—生きもの・なりわい・わざ

班長 大浦康介

研究期間 2015年4月—2017年3月(2年度目)

研究実施状況

本年度は、班員各員による個別課題についての研究報告を中心に例会を開催するとともに、特に動物論に関わってゲスト・スピーカーを招きながら、環世界論および人間の主体の再検討の議論をさらに発展させた。個別課題研究では、個人と外部環境(社会関係も含む)との関係性の検討から主体を問い直す報告(立木、唐澤、田中雅一、松嶋、平野、田中祐理子)と、人間の集団的な生活様態と自然環境との間に生じる相関的な影響を歴史的・人類学的に分析する報告(坂口、篠原、橋本、井黒)とがなされ、個体生と集合性の両面から主体概念をとらえ直し、環境とのかかわりを考察した。そのうえで、12月に開催したミニ・シンポジウムでは、班長である大浦によって「対面性」をキーワードに環世界論における人間の独自性が考察され、これをもとに共同研究班員およびシンポジウム参加者による全体討論を行い、研究班の活動を包括的に再検討した。

研究班員

所内：大浦康介、石井美保、藤原辰史、岩城卓二、  
王寺賢太、菊地暁、小関隆、田中雅一、立  
木康介、瀬戸口明久、藤井正人、イリナ・  
ホルカ、山室信一、藤井俊之、小川佐和子、  
田中祐理子、池田さなえ

学内：塩瀬隆之(総合博物館)、山越言(アフリ  
カ地域研究資料センター)、百木漠(人  
間・環境学研究科博士課程)、開信介(人  
間・環境学研究科博士課程)、小柏裕俊  
(文学研究科博士課程)、松葉類(文学研  
究科博士課程)、吉松覚(人間・環境学研  
究科博士課程)、石川登(東南アジア研究  
所)

学外：井黒忍(大谷大学)、板垣貴志(島根大学)、  
岩松正洋(関西学院大学)、大村敬一(大  
阪大学)、久保昭博(関西学院大学文学部)、  
佐塚志保(トロント大学)、篠原雅武(大  
阪大学)、三俣延子(同志社大学)、中川理  
(立教大学)、松村圭一郎(岡山大学)、近  
藤秀樹(大阪教育大学)、齊藤渉(東京大  
学)、橋本道範(滋賀県立琵琶湖博物館)、  
坂口正彦(大阪商業大学)、水野宏美(ミ  
ネソタ大学)、河田学(京都造形芸術大学)、  
西川貴子(同志社大学)、松岡隆浩(人文  
書院)、箱田徹(大阪市立大学)、北村直子  
(同志社大学)、川村文重(慶應義塾大学)、  
松嶋健(広島大学)、山崎明日香(京都在  
学)、岡安裕介(NPO法人京都アカデメイ  
ア)、唐澤太輔(龍谷大学)、平野徹之(学  
習塾トライ)

研究実施内容

2016年

- 4月23日 対象のモノ化、モノの対象化—「媒  
介」される生の運命  
発表者：立木康介(人文研)
- 5月23日 カングレム『正常と病理』について  
発表者：田中祐理子(人文研)
- 6月6日 生業と地方自治・国家—1910~60年  
代長野県の一山村におけるコモングの  
展開—  
発表者：坂口正彦(大阪商業大学)
- 6月20日 南方熊楠の視座—夢、華嚴、粘菌—  
発表者：唐澤太輔(龍谷大学)
- 7月4日 環世界としてのニュータウン：人工空  
間にかんする哲学的試論  
発表者：篠原雅武(大阪大学)



- 7月25日 〈人間〉の創発、〈生きもの〉への接地  
— 社会性・賭け・精神病理 —  
発表者：松嶋健（広島大学）
- 10月3日 〈リュクレーズ〉とは誰／何か？  
発表者：鶴飼哲（一橋大学）
- 10月17日 アメリカ史と動物研究の展開  
発表者：丸山雄生（一橋大学）
- 11月7日 地域環境史モデル試論 — フナを主体  
とした物語は描けるか —  
発表者：橋本道範  
（滋賀県立琵琶湖博物館）
- 11月21日 中国近世「水権」試論 — 水をめぐる  
「伝統」の形成過程  
発表者：井黒 忍（大谷大学）
- 12月5日 アウシュヴィッツ以後環世界について  
語ることをめぐって  
発表者：田中雅一（人文研）  
ハイデガーのアリストテレス解釈と歴  
史的環世界  
発表者：平野徹之（学習塾トライ）
- 12月19日 ミニ・シンポジウム「対面性をめぐっ  
て」  
対面性をめぐって  
発表者：大浦康介（人文研）  
司会：藤原辰史（人文研）  
対談・対面性をめぐって  
発表者：大浦康介  
コメンテーター：藤原辰史
- 2017年
- 1月23日 エチオピア農村社会の労働とエコノ  
ミー～「なりわい」の環世界的理解に  
向けて～  
発表者：松村圭一郎（岡山大学）
- 2月6日 人と野生動物の境界をめぐるせめぎあ  
い  
発表者：山越 言  
（京大アジア・アフリカ地域研究  
研究科）
- 現代/世界とは何か？ — 人文学の視点から  
班長 山室信一、小関 隆  
研究期間 2015年4月—2018年3月（2年度目）  
研究実施状況  
2016年4月以降、2017年1月26日までに例会を  
11回開催した（2017年2月までにさらに2回の例  
会が予定されている）。そのうち2回は、人文研ア  
カデミーの一環として公開合評会の形態をとり、い  
ずれも約50人の聴衆を得た。前年度の場合と同じ  
く、「環世界の人文学」班とのジョイント開催とさ  
れた例会（2016年4月23日、さらに2017年1月  
27日予定のもの）もあり、多くの分野にまたがる  
学際的な議論が実現された。また、11月4～5日  
には、日本、韓国、中国、台湾から研究者を招聘し、  
国際研究フォーラム「東アジアにおける歴史認識と  
歴史教育：人文社会科学の課題と可能性」を主催し  
た。この企画は2015年度に共催した国際カンファ  
レンス「歴史と記憶の政治とその紛争」を引き継ぐ  
性格のものであり、共同班長の山室が基調報告者を、  
小関がコメンテーターを務めた。報告者の内訳は、  
日本3人、韓国3人、中国2人、台湾2人であった。  
2017年度は最終年度であり、成果のとりまとめ作  
業が主たる課題となる。
- 研究班員  
所内：山室信一、小関隆、伊藤順二、岡田暁生、  
小川佐和子、小野容照、高階絵里加、藤  
井俊之、石井美保、石川禎浩、岩城卓二、  
王寺賢太、大浦康介、瀬戸口明久、高木  
博志、武上真理子、田中雅一、立木康介、  
藤原辰史、イリナ・ホルカ、村上衛、森  
川裕貴、小石かつら  
学内：猪股祐介（学際融合教育研究推進セン  
ター・研究員）、金沢周作（文学研究科）、  
奈良岡聰智（法学研究科）、永原陽子（文  
学研究科）、西牟田祐二（経済学研究科）  
学外：池田嘉郎（東京大学）、石垣勝（東京大学）、  
石橋悠人（新潟大学）、板橋拓己（成蹊大  
学）、伊東信宏（大阪大学）、井野瀬久美恵  
（甲南大学）、今井宏昌（日本学術振興会特  
別研究員）、上尾真道（立命館大学）、上田  
和彦（関西学院大学）、遠藤乾（北海道大

人 文 学 報

- 学), 大津留厚 (神戸大学), 小野塚知二 (東京大学), 小野寺史郎 (埼玉大学), 田辺明生 (東京大学大学院総合文化研究科)
- 11月5日 東アジア歴史研究フォーラム「東アジアにおける歴史認識と歴史教育」
- 12月9日 「新しい時代」以後の世界  
発表者: 三輪眞弘
- 研究実施内容
- 2016年
- 4月23日 対象のモノ化, モノの対象化—「媒介」される生の運命発表者: 立木康介
- 5月13日 モデルネをめぐる言説—ボードレールあるいはベンヤミン発表者: 藤井俊之
- 5月28日 平野千果子『アフリカを活用する』合評会 (評者: 小川了, 小野容照)  
発表者: 平野千果子 (武蔵大学)  
発表者: 小川 了  
発表者: 小野容照
- 6月10日 「現代」のおわり, 現在のはじまり—歴史のなかの1970年代アメリカ—  
発表者: 中野耕太郎 (大阪大学)
- 6月25日 ローマ帝国解釈と近現代の世界  
発表者: 南川高志 (京都大学)
- 7月8日 石油とコスミズム: ロシアという現代／世界  
発表者: 伊藤順二
- 7月23日 荒木映子『ナイチンゲールの末裔たち』合評会アカデミー (評者: 井野瀬久美恵, 小関隆) 発表者: 荒木映子  
発表者: 井野瀬久美恵 (甲南大学)  
発表者: 小関 隆
- 10月7日 朝鮮半島の「現代」と大韓民国臨時政府  
発表者: 小野容照
- 10月22日 「1937年—美術・社会・政治」1937年パリ万博をめぐるフランスの文化政策  
発表者: 大久保恭子 (京都橘大学)  
1937年における第三帝国の展示・文化政策—パリ万博ドイツ館/退廃芸術展/大ドイツ芸術展  
発表者: 河本真理 (日本女子大学)  
昭和前期の日本と美術—1937年パリ万博参加をめぐって  
発表者: 高階絵里加
- 11月4日 東アジア歴史研究フォーラム「東アジアにおける歴史認識と歴史教育」
- 2017年
- 1月14日 過去が紛争化させられる時代  
発表者: 橋本伸也 (関西学院大学)
- 1月27日 ボロとクズの人文学発表者: 藤原辰史
- 2月10日 人文学・期待の地平—環地方学と思詞学そして空間学へ—  
発表者: 山室信一
- ブラフマニズムとヒンドゥイズム—南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性 班長 藤井正人  
研究期間 2016年4月—2019年3月(1年度目)  
研究実施状況  
本研究では3年の研究期間を半年ごとの全6クールに分け, 各クールごとにテーマを設定し, 複数回の定例研究会とクール最後のシンポジウムを開催している。今年度第1クールでは, ブラフマニズムからヒンドゥイズムへの「知」の変化と発展に関して複数の視点からの報告が行われ, 10月に「古代インド思想における『知』の深化『知』の拡大」をテーマに第1回シンポジウムを開催した。第2クールでは, ブラフマニズムとヒンドゥイズムにおける「出家・苦行」を取り上げ, 定例研究会で報告を行うとともに, 年度末に「古代インドにおけるアセティシズムの諸相—禁欲・苦行・出家—」をテーマに第2回シンポジウムを開催した。
- 研究班員  
所内: 藤井正人, 井狩彌介, 田中雅一, 石井美保  
学内: 赤松明彦 (文学研究科), 横地優子 (文学研究科), 置田清和 (白眉センター), 八木綾子 (文学研究科・非常勤講師), 川村悠人 (学振・特別研究員), 小倉智史 (学振・特別研究員), 高橋健二 (文学研究科・博士後期課程)  
学外: 天野恭子 (大阪大学・招へい研究員), 池田宣幸 (大阪大学・博士学位取得), 伊澤敦子 (国際仏教学大学院大学・図書館職員), 井田克征 (金沢大学・客員研究員),

- 永ノ尾信悟（東京大学・名誉教授），大島智靖（東京大学・研究員），尾園絢一（東北大学・専門研究員），梶原三恵子（東京大学），河崎 豊（東京大学），小林正人（東京大学），柴崎麻穂（中村元東方研究所・専任研究員），田辺明生（東京大学），手嶋英貴（京都文教大学），堂山英次郎（大阪大学），名和隆乾（大阪大学），西村直子（東北大学・非常勤講師），沼田一郎（東洋大学），山田智輝（大阪大学・招へい研究員），吉水清孝（東北大学）
- 研究実施内容
- 2016 年
- 5 月27日 「ラーマの双子の息子たち — ヴェーダに見るその人物像の期限 —」  
 発表者：手嶋英貴（京都文教大学）
- 6 月24日 「正しい言語使用に基づく功德と至福 — 文法学派のダルマ論序説」  
 発表者：川村悠人  
 日本学術振興会  
 特別研究員（京都大学）
- 7 月22日 「Maitrayani Samhita における ya evam veda/ya evam vidvan の使用法  
 プラフマニズムにおける哲学的傾向の源流を探る」  
 発表者：天野恭子（大阪大学）
- 9 月23日 「ヴェーダとサーンキヤのあいだ — 『マヌ法典』の存在論をめぐる —」  
 発表者：手嶋英貴（京都文教大学）
- 10月 8日 第1回シンポジウム「古代インド思想における『知』の深化『知』の拡大」  
 「祭式を裏付ける「知識」を巡って — 古ヴェーダ祭式文献における yá evám vidvan / véda の使用法と哲学思想の発展 —」  
 発表者：天野恭子（大阪大学）  
 「初期文法学派のダルマ論 — ヴェーダ世界と日常世界における知行 —」  
 発表者：川村悠人（日本学術振興会  
 特別研究員（京都大学））  
 「ヴェーダとサーンキヤのあいだ — マヌ法典の存在論をめぐる —」  
 発表者：手嶋英貴（京都文教大学）
- 11月18日 「ハルシャ王と女神崇拜 — 王権儀礼の観点から —」  
 発表者：横地優子（京都大学）
- 12月16日 「初期シヴァ教最古学派・パーシュパタの伝えるディークシャーについて」  
 発表者：大島智靖（東京大学）
- 2017 年
- 1 月20日 「リグヴェーダ以降の文献における sindhu-について」  
 発表者：山田智輝（大阪大学）  
 「初期仏典における梵我一如の併存」  
 発表者：名和隆乾（大阪大学）
- 2 月17日 「白衣派ジャイナ教における出家の許可基準に関する議論」  
 発表者：河崎 豊（東京大学）  
 「brahmacārin 再考 — ヴェーダからポスト・ヴェーダへ —」  
 発表者：梶原三恵子（東京大学）
- 3 月 3日 「ジャイナ古層聖典における samyama の意味について」  
 発表者：八木綾子（京都大学）  
 「Dāksāyana 祭が示唆するもの — 祭式の整備と社会の変化 —」  
 発表者：西村直子（東北大学）
- 3 月25日 第2回シンポジウム「古代インドにおけるアセティシズムの諸相 — 禁欲・苦行・出家 —」  
 「聖典学習者と禁欲 — brahmacārin 再考 —」  
 発表者：梶原三恵子（東京大学）  
 「社会に取り込まれた苦行 — ヴァーナプラスタ（林住者）と山林苦行者 —」  
 発表者：藤井正人（京都大学）  
 「誰が出家すべきか — 白衣派ジャイナ教資料に見える議論をめぐる —」  
 発表者：河崎 豊（東京大学）  
 「ジャイナ古層聖典における samjama の意味について」  
 発表者：八木綾子（京都大学）

3月26日 第2回シンポジウム(続き)  
「初期シヴァ教のディークシャーと  
ヴェーダ」

発表者：大島智靖(東京大学)

「パーシュパタ派のヨーガ」

発表者：横地優子(京都大学)

アジアにおける人種主義の連鎖と転換

班長 竹沢泰子

研究期間 2016年04月-2019年03月(1年度目)  
研究実施状況

本年度に新しく立ち上げた本研究会は、同じく新規に採択された科学研究費基盤(S)と連動させながら、アジアにおける人種主義を主眼に置いた共同研究を進めている。本年度は、12月末までに6回の研究会を行い、3月末までには合計11回の研究会を行う予定である。内容としては、ゲノム研究の現状や遺伝病の集団差、日本人の起源などをめぐる文理融合の共同研究や、海外からの報告者を交えての国際ワークショップ(公開)、さらに本年度に刊行されたシリーズ「人種神話を解体する」(全3巻)の合評会(非公開)、国際共同研究の成果論文集Trans-Pacific Japanese American Studiesの執筆陣座談会(公開)などを開催した。これらの共同研究会を通して、次のさらなる課題を明確にし、共有することを目標とした。

研究班員

所内：石井美保、瀬戸口明久、徳永悠

学内：川上浩司(大学院医学研究科)、佐野亘  
(大学院地球環境学堂)、Caroline Hau(東南アジア研究所)

学外：田辺明生(東京大学)、太田博樹(北里大学)、鬼丸武士(九州大学)、坂野徹(日本大学)、篠田謙一(国立科学博物館)、関口寛(四国大学)、瀬口典子(九州大学)、徳永勝士(東京大学)、成田龍一(日本女子大学)、舟橋健太(龍谷大学)、吉村智博(大阪人権博物館)、John Russell(岐阜大学)、渡辺紀子(立命館大学)、崔徳孝(ケンブリッジ大学)、Arnaud Nanta(フランス国立科学研究センター

(CNRS)), Mark Winchester(神田外国語大学)

研究実施内容

2016年

6月19日 第1回研究会

ゲノムのさらなる展開

発表者：太田博樹(北里大学)

疾患感受性の遺伝子と集団差—3つの疾患を例として

発表者：徳永勝士(東京大学)

6月25日 第2回研究会 国際セミナー“Inter-

secting the Global with the Local: Activism and American Minorities”

“Between Social Death and State Recognition: Japanese Americans and the Gila River Indian Community During World War II”

発表者：Myla Vicenti-Carpio

(Arizona State University)

発表者：Karen J. Leong

(Arizona State University)

コメンテーター：Masumi Izumi

(同志社大学)

“Intersections of Atomic Memory and Asian American Activism in the 1970s and 80s”

発表者：Crystal Uchino

(人間・環境学研究科)

コメンテーター：

Judy Tzu-Chun Wu

(University of California, Irvine)

“Chee Kung Tong and China Revolution: How Chinese Americans Understood Diasporic Politics”

発表者：Yumei Song

(人間・環境学研究科)

コメンテーター：

Judy Tzu-Chun Wu

(University of California, Irvine)

“Patsy for President: Patsy Takemoto Mink, Cold War Liberalism, and the Viet Nam War”

- 発表者：Judy Tzu-Chun Wu  
(University of California, Irvine)  
全体討論 “Intersecting the Global with the Local/ Activism and American Minorities”  
司会：Brian Masaru Hayashi  
(人間・環境学研究科)  
司会：徳永 悠
- 7月3日 第3回研究会  
全体討論／各メンバーの研究テーマ紹介  
発表者：関口 寛 (四国大学)  
発表者：成田龍一 (日本女子大学)  
発表者：吉村智博 (大阪人権博物館)  
発表者：John Russell (岐阜大学)  
発表者：田辺明生 (東京大学)  
発表者：崔 徳孝  
(ケンブリッジ大学)  
発表者：Arnaud Nanta  
(フランス国立科学研究センター)  
発表者：Mark Winchester  
(神田外国語大学)  
発表者：竹沢泰子  
発表者：徳永 悠
- 10月3日 第4回研究会  
米国初の特大人種用薬剤 BiDil をめぐる議論から 発表者：竹沢泰子  
医薬品承認をめぐる国際間交渉や意思決定 — ICH 発足当時の現場から —  
発表者：黒川達夫  
(くすりの適正使用協議会理事長,  
日本 OTC 医薬品協会理事長,  
日本バイオシミラー協議会理事長)
- 10月22日 第5回研究会 国際セミナー Trans- Pacific Japanese American Studies  
“Asian American Culture on Stage: Transforming the View”  
発表者：Velina Hasu Houston  
(University of Southern California)  
コメンテーター：  
Alina Elena Anton (神戸大学)  
“The Japanese and the Origins of the Orientalist Buddy Film”  
発表者：Brian Locke  
(University of Tokyo)  
コメンテーター：  
Mitsuyo Wada-Marciano  
(Carleton University /  
国際日本文化研究センター)  
執筆陣による座談会：Trans-Pacific Japanese American Studies (Yasuko Takezawa and Gary Y. Okihiro, eds. University of Hawai'i Press, 2016) の刊行を記念して 司会：竹沢泰子  
発表者：和泉真澄 (同志社大学)  
発表者：河上幸子  
(京都外国語大学)  
発表者：今野裕子 (上智大学)  
発表者：武田興欣  
(青山学院大学)  
発表者：佃 陽子 (成城大学)  
発表者：中村理香 (成城大学)  
発表者：松本悠子 (中央大学)  
発表者：南川文里 (立命館大学)
- 12月11日 第6回研究会  
※『人種神話を解体する』(1~3巻)  
各序論を中心に概要を説明  
発表者：坂野 徹 (日本大学)  
発表者：竹沢泰子  
日本人起源論の持つ視点  
発表者：篠田謙一 (国立科学博物館)  
「遺伝情報に基づく差別 (genetic discrimination)」をとらえなおす  
発表者：武藤香織 (東京大学)
- 2017年  
1月25日 第7回研究会 (合評会)  
合評会 齊藤綾子・竹沢泰子編『人種神話を解体する』(第1巻)  
コメンテーター：成田龍一  
(日本女子大学)  
合評会 坂野徹・竹沢泰子編『人種神話を解体する』(第2巻)  
コメンテーター：田辺明生

- (東京大学)  
合評会 川島浩平・竹沢泰子編『人種神話を解体する』(第3巻)  
コメンテーター：関口 寛  
(四国大学)
- 3月8日 第8回研究会 文理融合セミナー  
政治と科学(者)の関係  
発表者：佐野 亘(地球環境学堂)  
ポストゲノム時代の「人種」  
発表者：田辺明生(東京大学)
- 3月9日 第9回研究会 文理融合セミナー  
ゲノムと病気の関係  
発表者：徳永勝士(東京大学)  
ゲノム情報に基づく個人の表現型予測と医療への応用  
発表者：今西 規(東海大学)
- 3月28日 第10回 歴史文化班研究会  
『人種神話を解体する』合評会まとめ・今後の課題 発表者：竹沢泰子  
人種差別からの自由  
発表者：マーク・ウィンチェスター  
(神田外語大学)
- 3月29日 第11回 歴史文化班研究会  
現代インドにおける「人種」と差異の政治—多様性と平等性をめぐる社会的考察  
発表者：田辺明生(東京大学)  
いまいちど、人種をめぐって  
発表者：成田龍一(日本女子大学)

近代天皇制と社会 班長 高木博志  
研究期間 2013年04月—2017年03月(4年度目)  
研究実施状況

「天皇」個人や「天皇像」、あるいは単なる政治過程でなく、天皇制を国家や社会とのかかわりで考える問題意識をもって、研究会を積み重ねた。全8回の研究会では、天皇制と社会をめぐって、神社・ファシズム・美術・顕彰活動など多様な問題について議論した。9月9日には洛西地域(上里の水利の記念碑・正法寺の忠魂堂など)における巡見をおこなった。さらに9月12日には、京都大学が管理す

る清風荘(西園寺別邸)の見学をおこなうとともに、同地で天皇制と宗教の問題に関する二つの議題について研究会をおこなった。10月15日には、国際シンポジウム「日清戦争期の東アジア」をもち、東学農民軍に関する先行研究の見直し、東学農民戦争に関する日本メディアの反応、及び同時期のアイヌに関する諸問題が議論された。このシンポジウムをもとに、『人文学報』の特集号をくむ予定である。また、本研究班の活動をもとに、2017年度には共同研究報告書『近代天皇制と社会』を刊行したい。

研究班員

所内：高木博志、岩城卓二、高階絵里加、瀬戸口明久、藤原辰史、池田さなえ  
学内：谷川稜(文学研究科)、駒込武(教育学研究科)  
学外：福家崇洋(富山大学)、日向伸介(静岡大学)、田中智子(同志社大学)、飯塚一幸(大阪大学)、市川秀之(滋賀県立大学)、上田長生(金沢大学)、遠藤俊六(茨木市)、小川原幸宏(同志社大学)、長志珠絵(神戸大学)、尾谷雅彦(河内長野市)、小股憲明(大阪芸術短期大学)、鍛冶宏介(京都学園大学)、河西秀哉(神戸女学院大学)、小林丈広(同志社大学)、佐竹朋子(柳沢文庫)、高久嶺之介(京都橘大学)、羽賀祥二(名古屋大学)、幡鎌一弘(天理大学)、原田敬一(仏教大学)、ジョン・グリーン(国際日本文化研究センター)、原戸喜代里(京都府)、赤澤史朗(立命館大学)、本康宏史(金沢星稜大学)、山本真紗子(立命館大学)、廣木尚(早稲田大学)、平山昇(九州産業大学)、黒岩康博(天理大学)、昆野伸幸(神戸大学)、松山恵(明治大学)

研究実施内容

2016年

- 4月2日 昭和大礼と映画都市京都  
発表者：富田美香
- 5月28日 天皇制ファシズムと地域社会—「勝つために戦ふ村」翼賛模範村見山村と草の根ファシズムの「先導者」大植啓治

- |        |   |  |
|--------|---|--|
|        | 発表者：遠藤俊六（茨木市）   | 発表者：上田長生（金沢大学）   |
|        | 大正・昭和戦前期の伊勢神宮・明治神宮参拝の動向について   | ウメサオ・スタディーズの射程 班長 田中雅一   |
| 6月11日  | 発表者：平山 昇（九州産業大学）<br>明治中期の皇室と社会 ―〈開明社川下げ一件〉における天皇・皇室の不在  | 研究期間 2015年04月－2018年03月（2年度目）<br>研究実施状況   |
|        | 発表者：池田さなえ（京都大学）<br>明治期 地域からの楠公父子顕彰その動向について  | 本研究会は以下の三つの活動からなる。2と3は「みやこの学術資源プロジェクト」と連携して行っている。1) 研究発表：梅棹の関心や業績は多岐にわたる。これらを整理し、主要なテキスト読み、それに基づいて研究会を行う。2) 紙媒体資料のデジタル化：具体的には、人文科学研究所に残されている社会人類学講座の梅棹関係の書類を項目ごとに分類し、デジタル化し、整理している。デジタル化された文書のリストを作成、詳細な説明をつけた資料も作成中である（今年度終了予定）。3) テープ資料のデジタル化：京大在籍中の梅棹忠夫の活動は多岐にわたるが、そのひとつが近衛ロンドという研究会・自主講義であった。当時の会合を記録していたオープンリールテープを、昨年も引き続き外注してデジタル化している。 |
| 9月9日   | 発表者：尾谷雅彦（河内長野市）<br>洛西フィールドワーク<br>上里の水利の記念碑、軍人墓地、是住院・富岡鉄斎の墓、正法寺の忠魂堂、西迎寺・忠魂碑など  | 研究班員   |
| 9月12日  | 奈良県下における近代遥拝所の様相<br>発表者：市川秀之（滋賀県立大学）<br>「国体明徴」と宗教運動   | 所内：石井美保、菊地暁、小池郁子、Bill Mak（白眉）、Shen Tiantian（研究員）、茶園敏美（研究員）<br>学内：高嶋航（文学研究科）、武田龍樹（文学研究科）<br>学外：田辺明生（東京大学）、飯田卓（国立民族学博物館）、平井京之介（国立民族学博物館）、河西瑛里子（物療大学）、飯塚真弓（高崎経済大学）  |
| 10月15日 | 日清戦争期の東アジア<br>東学農民戦争期における南接と北接の問題について 発表者：朴 孟洙<br>日清戦争期『香川新報』の甲午農民戦争報道―井上勝生『明治日本の植民地支配 北海道から朝鮮へ』の書評にかえて― 発表者：中川未来<br>アイヌ民族近代史を問い直す 日清戦争前後を中心に 発表者：井上勝生<br>コメント 発表者：原田敬一 |  |
| 10月22日 | 平塚瓢箪論<br>発表者：小林丈広（同志社大学）<br>明治維新と画壇の再編<br>発表者：中野慎之（京都市）   | 研究実施内容<br>2016年  |
| 11月12日 | 神功皇后伝説の地域的展開と「帝国」意識 ―金沢の八幡信仰とその表象―<br>発表者：本康宏史（金沢星稜大学）<br>中島久万吉筆禍事件の社会的背景<br>発表者：廣木 尚（早稲田大学）  | 6月16日 液化化する親密圏1<br>ポリアモリーと子ども<br>発表者：深海菊絵（一橋大学大学院）<br>司会：田中雅一（京都大学人文科学研究所）   |
| 12月17日 | 天皇と大麻：「もの」からみた昭和戦前期<br>発表者：ジョン・ブリー<br>国際日本文化研究センター<br>明治前期の陵墓・皇霊祭祀の特質   | 6月23日 液化化する親密圏2<br>「正しきらしきもの」を解放する“ゆるさ”<br>発表者：雨宮 優（silent it 代表）  |

人 文 学 報

- |        |  |   |
|--------|--|---|
|        | 司会：田中雅一<br>(京都大学人文科学研究所)   | 「ヴァードゥーラ・シュラウターストラ」研究<br>班長 井狩彌介, 藤井正人  |
| 6月30日  | 液状化する親密圏3<br>現代日本の同性婚ニーズ 法制度の現<br>状と課題 発表者：森 あい<br>(熊本弁護士会<br>同性婚人権救済弁護士団) | 研究期間 2015年04月-2018年03月(2年度目)<br>研究実施状況<br>ヴァードゥーラ・シュラウターストラの第8章<br>(アグニチャヤナ祭)を研究対象にして、井狩(班<br>長)が校訂テキストと訳注を作成し、研究会で報告<br>するとともに、参加者全員によって検討を行った。<br>昨年度と同様に、テキストの会読を中心に、補説的<br>な研究を混ぜながら共同研究を進めた。今年度、検<br>討したテキストの主題は、ウカー土器の製作、三層<br>からなるイシュティ、犠牲祭に関する諸祭事などで<br>ある。補説的な研究としては、ホートリ選任儀礼で<br>表明されるブラヴァラ(祖先名)について報告を<br>行った。 |
| 7月7日   | 液状化する親密圏4<br>新しい「性の公共」をつくる<br>発表者：坂爪真吾<br>(一般社団法人ホワイトハンズ<br>代表理事)          | 研究班員<br>所内：井狩彌介, 藤井正人<br>学内：横地優子(文学研究科), 八木綾子(文学<br>研究科・非常勤講師), 高橋健二(文学研<br>究科・博士後期課程)  |
| 7月14日  | 液状化する親密圏5<br>結婚と売春 発表者：田中雅一<br>(京都大学人文科学研究所)                               | 学外：天野恭子(大阪大学・招へい研究員), 池<br>田宣幸(大阪大学・博士学位取得), 伊澤<br>敦子(国際仏教学大学院大学・図書館職<br>員), 永ノ尾信悟(東京大学・名誉教授),<br>大島智靖(東京大学・研究員), 尾園絢一<br>(東北大学・専門研究員), 梶原三恵子<br>(東京大学), 小林正人(東京大学), 柴崎<br>麻穂(中村元東方研究所・専任研究員),<br>手嶋英貴(京都文教大学), 堂山英次郎<br>(大阪大学), 名和隆乾(京都光華女子大<br>学・嘱託研究員), 西村直子(東北大学・<br>非常勤講師), 山田智輝(大阪大学・研究<br>員)                       |
| 7月31日  | 梅棹忠夫とその周辺<br>梅棹 その知的生産の位置づけ<br>発表者：谷 泰(京都大学)                               |   |
| 10月19日 | 「紛争」と「和解」の正義論<br>紛争解決フィクションと修復的アプ<br>ローチの限界 発表者：大津留香織<br>(北九州市立大学・非常勤)     | 研究実施内容<br>2016年   |
|        | 共同体ガバナンスにおける和解戦略<br>普遍的道徳基盤「互恵」「共感」にも<br>とづく正義の実現 発表者：竹川大介<br>(北九州市立大学)    | 5月27日 Vādhūla Śrautasūtra 8.5.9-8.6.22<br>発表者：井狩彌介  |
|        | コメンテーター：太田 至<br>(京都大学アジア・<br>アフリカ地域研究科)                                    | 6月24日 Vādhūla Śrautasūtra 8.7<br>発表者：井狩彌介   |
|        | 司会：田中雅一<br>(京都大学人文科学研究所)   | 7月22日 Supplement to 7th Report (June 24,<br>2016)<br>発表者：井狩彌介   |



- 9月23日 Vādhūla Śrautasūtra 8.8.1-37  
発表者：井狩彌介
- 11月18日 Vādhūla Śrautasūtra 8.8.38-45  
発表者：井狩彌介
- 12月16日 Vādhūla Śrautasūtra 8.9.1-20  
発表者：井狩彌介
- 2017年
- 1月20日 Vādhūla Śrautasūtra 8.9.21-10.59  
発表者：井狩彌介
- 2月17日 アグニチャヤナ祭予備祭式の  
Pasubandha の構成をめぐる  
発表者：井狩彌介
- 3月3日 Vādhūla Śrautasūtra 8.11.1-  
発表者：井狩彌介

## 東方学研究部

## 東アジア近世の地域をつなぐ関係と媒介者

班長 岩井茂樹

研究期間 2014年04月-2017年03月(3年度目)

## 研究実施状況

2015年4月から2016年1月の間、課題についての研究報告をおこなう研究会を計12回開催した。このほか、研究班のサブグループによる『道咸宦海見聞録』の会読をおこなった(計13回)。これは19世紀に翰林官および地方官僚を歴任した張集馨(1800年~1879年)が遺した自編年譜および日記からなる史料である。会読にさいしては電子テキストを作成し、その校訂作業を併せておこなっている。

## 研究班員

所内：矢木毅、宮宅潔、村上衛、高井たかね、岩井茂樹、庄声、望月直人(研究員)、小林隆道

学内：岩本真利絵(大学院文学研究科DC)、項巧鋒(大学院文学研究科DC)、宋宇航(大学院文学研究科DC)、凌鵬(大学院文学研究科DC)

学外：山崎岳(奈良大学)、城地孝(研究員)(同志社大学)、藤本幸夫(富山大学)、金文京(鶴見大学)、植松正(京都女子大学)、小野達哉(大阪大学)、加藤雄三(三重大学)、

伍躍(大阪経済法科大)、中島楽章(九州大学)、水越知(関西学院大学)、承志(追手門学院大学)、石野一晴、市丸智子(九州大学)、藤本猛(清泉女子大学)、毛利英介(関西大学)、木村加奈子(ソウル大学校)、辻原明穂(京都女子大学)、李怡文(エール大学)

## 研究実施内容

## 2016年

- 4月13日 会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』  
発表者：岩本真利絵  
(京都大学大学院文学研究科  
博士後期課程)
- 発表者：宋宇航(京都大学大学院  
文学研究科修士課程)
- 4月27日 会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』  
発表者：張子康  
(京都大学大学院文学研究科修士課程)
- 発表者：後藤陸(京都大学大学院  
文学研究科修士課程)
- 5月10日 明朝による無祀鬼神祭祀政策—祭厲  
制度と蔣山法会  
発表者：濱野亮介(大谷大学)
- 5月18日 会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』  
発表者：城地孝 同志社大学文学部  
発表者：望月直人  
(現代中国研究センター産学  
連携研究員・非常勤)
- 5月31日 「誣告」問題と情理秩序—同治朝巴県  
の「租佃関係」に関する誣告案件を例  
にして 発表者：凌鵬  
(京都大学大学院  
文学研究科博士後期課程)
- 6月1日 会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』  
発表者：岩本真利絵  
(京都大学大学院文学研究科  
博士後期課程)
- 発表者：宋宇航(京都大学大学院  
文学研究科博士後期課程)
- 6月14日 大礼の議の公私論—明代後期におけ  
る皇帝の正当性に関する一考察—

人 文 学 報

- 発表者：岩本真利絵  
(京都大学大学院文学研究科  
博士後期課程)
- 10月4日 三藩の乱時期の朝清関係と日本  
発表者：木村可奈子  
(人文科学研究所教務補佐員・非常勤)
- 6月15日 会説：張集馨著『道咸宦海見聞録』  
発表者：後藤 隆 (京都大学大学院  
文学研究科修士課程)  
発表者：張 子康  
(京都大学大学院文学  
研究科修士課程)
- 10月25日 沈惟敬再考 発表者：城地 孝  
(同志社大学文学部)
- 10月26日 会説：張集馨著『道咸宦海見聞録』  
発表者：張 子庚  
(京都大学文学研究科 MC)  
発表者：梁 鎮海  
(人文科学研究所研究生)
- 6月29日 会説：張集馨著『道咸宦海見聞録』  
発表者：小野達哉  
(文学研究科教務補佐員・非常勤)  
発表者：凌 鵬 (京都大学大学院  
文学研究科博士後期課程)
- 11月1日 明代後期の原理主義をめぐる一考察1  
— 桂萼の土地制度改革論とその思想的  
背景 — 発表者：岩本真利絵  
(京都大学文学研究科 DC)
- 7月12日 元明清公文書の引用終端語再考  
発表者：岩井茂樹 (人文科学研究所)
- 11月8日 明代内閣政治史研究の現状と課題—  
中国における「宰相論争」を中心—  
発表者：宋 宇航
- 7月13日 会説：張集馨著『道咸宦海見聞録』  
発表者：城地 孝  
(同志社大学文学部)  
発表者：望月直人  
(現代中国研究センター産学  
連携研究員・非常勤)
- 11月9日 会説：張集馨著『道咸宦海見聞録』  
発表者：後藤 隆  
(京都大学文学研究科 MC)  
発表者：城地孝 同志社大学文学部
- 7月26日 柳得恭手稿本『燕臺再游録』から見た  
冊封使李鼎元の琉球認識と清・琉球・  
日本・朝鮮四国の国際関係  
発表者：木村可奈子  
(人文科学研究所  
教務補佐員・非常勤)
- 11月22日 『経世大典』にみる元朝の対日本外交  
論—  
発表者：植松 正 (京都女子大学)
- 11月30日 会説：張集馨著『道咸宦海見聞録』  
発表者：望月直人  
(人文科学研究所産学  
連携研究員・非常勤)  
発表者：梁 鎮海  
(人文科学研究所研究生)
- 7月27日 会説：張集馨著『道咸宦海見聞録』  
発表者：岩本真利絵  
(京都大学大学院文学研究科  
博士後期課程)  
発表者：後藤 隆  
(京都大学大学院  
文学研究科修士課程)
- 12月14日 会説：張集馨著『道咸宦海見聞録』  
発表者：岩本真利絵  
(京都大学文学研究科 DC)
- 2017 年
- 9月28日 会説：張集馨著『道咸宦海見聞録』  
発表者：城地 孝  
(同志社大学文学部)  
発表者：望月直人  
(現代中国研究センター  
産学連携研究員・非常勤)
- 1月11日 会説：張集馨著『道咸宦海見聞録』  
発表者：凌 鵬  
(京都大学文学研究科 DC)  
発表者：張 子康  
(京都大学文学研究科 MC)
- 1月24日 鉞山・市場町・「疆域截然」・一九世紀、  
中国・ベトナム辺境における会党の活

- 動について 発表者：望月直人  
(人文科学研究所産学連携  
研究員・非常勤)
- 2月1日 会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』  
発表者：後藤 陸  
京都大学文学研究科(MC)  
発表者：城地 孝  
(同志社大学文学部)
- 2月14日 士商文化的衝突と調和：再論清代廣告  
中的圖像與文字  
発表者：巫 仁恕  
(中央研究院近代史研究所)
- 2月15日 会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』  
発表者：望月直人  
(人文科学研究所産学  
連携研究員・非常勤)  
発表者：岩本真利絵  
(京都大学文学研究科 DC)
- 2月28日 琉球国の西洋船迎接体制 — 異国通事  
の役割を中心に —  
発表者：張 子康  
(京都大学文学研究科 MC)
- 3月1日 会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』  
発表者：木村可奈子  
(人文科学研究所  
教務補佐員・非常勤)  
発表者：凌 鵬  
(京都大学文学研究科 DC)
- 3月15日 会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』  
発表者：城地 孝  
(同志社大学文学部)  
発表者：小野達哉  
(文学研究科  
教務補佐員・非常勤)
- 【文史通義】研究 班長 古勝隆一  
研究期間 2015年04月—2018年03月(2年度目)  
研究実施状況  
本年度は4月19日に最初の研究班を開催して以来、おおむね2ヶ月に3回のペースで『文史通義』の会読を実施した。前年度に引き続き、活潑な議論を重ねており、問題が完全に解決してない部分については、議事録を作成し、後日あらためて検討することができるよう記録を保管してある。あらかじめ担当者を決めて、会の数日前に訳注稿を各班員に配布し、班員が事前に目を通した上で研究班に出席する方法を採用したため、研究班では効率的に議論することができた。本研究班では『文史通義』内篇五巻を訳出することを目的としており、巻一の部分については、2016年8月の時点で『東方学報』に入稿をすませ、同年12月現在、初校を行っているところである。また巻二については、まだ訳出を終えていないが、年度内には訳注を完成させ、2017年8月、『東方学報』に入稿する予定である。
- 研究班員  
所内：井波陵一、岩井茂樹、永田知之、藤井律之、土口史記、白須裕之  
学内：宇佐美文理(大学院文学研究科)、道坂昭廣(大学院人間環境学研究科)、古勝亮(文学部)、趙ウニル(大学院文学研究科)、田訪(大学院文学研究科)、中原佑真(大学院文学研究科)、福谷彬(大学院文学研究科)、廖明飛(大学院文学研究科)  
学外：小林隆道(神戸女学院大学)、内山直樹(千葉大学)、竹元規人(福岡教育大学)、渡邊大(文教大学)、重田みち(京都造形芸術大学)、山口智弘(二松学舎大学)、白石将人(北京大学)
- 研究実施内容  
2016年  
4月19日 『文史通義』巻二「原道下」訳注、および『文史通義』巻一の訳注出版に関する打ち合わせ  
『文史通義』巻二「原道下」訳注  
発表者：山口智弘  
(二松学舎大学)  
『文史通義』巻一の訳注出版に関する打ち合わせ 発表者：古勝隆一
- 5月17日 『文史通義』巻一の訳注の最終確認  
『文史通義』巻一の訳注の最終確認  
発表者：古勝隆一
- 6月21日 『文史通義』巻二「原学上」「原学中」

- 7月5日 訳注 『文史通義』卷二「原学中」「原学下」  
 訳注 『文史通義』卷二「原学中」訳注  
 発表者：重田みち (京都造形芸術大学)  
 『文史通義』卷二「原学下」訳注  
 発表者：古勝隆一
- 7月19日 『文史通義』卷二「博約上」訳注  
 『文史通義』卷二「博約上」訳注  
 発表者：田 訪 (京都大学大学院文学研究科)
- 10月18日 『文史通義』卷二「博約中」訳注  
 『文史通義』卷二「博約中」訳注  
 発表者：藤井律之
- 11月15日 『文史通義』卷二「博約下」訳注  
 『文史通義』卷二「博約下」訳注  
 発表者：宇佐美文理 (京都大学大学院文学研究科)
- 12月6日 『文史通義』卷二「言公上」訳注  
 『文史通義』卷二「言公上」訳注  
 発表者：古勝隆一
- 12月20日 『文史通義』卷二「言公上」訳注  
 『文史通義』卷二「言公上」訳注  
 発表者：古勝隆一
- 2017年
- 1月17日 『文史通義』卷二「言公中(前半)」訳注  
 『文史通義』卷二「言公中(前半)」訳注  
 発表者：内山直樹 (千葉大学)
- 2月7日 『文史通義』卷二「言公中(後半)」訳注  
 『文史通義』卷二「言公中(後半)」訳注  
 発表者：内山直樹 (千葉大学)
- 2月21日 『文史通義』卷二「言公下(後半)」訳注  
 『文史通義』卷二「言公下(後半)」訳注  
 発表者：竹元規人 (福岡教育大学)
- 転換期中国における社会経済制度** 班長 村上衛  
 研究期間 2016年04月-2018年03月(1年度目)  
 研究実施状況  
 本年度は3年計画の初年度にあたるため、旧研究班「近現代中国における社会経済制度の再編」から引き続いての班員と新規に加入した班員との間の学術交流の推進に力を注ぎ、計16回の研究会を行った。毎回の参加者数は20名ほどで、本学文学研究科の院生をはじめとする若手の班員からも積極的な参加と発言を得た。本研究班は時代的・テーマ的に広い範囲を扱うため、中国近現代史研究者のみならず、明清史研究者や現代中国研究者、また人文科学系だけではなく、社会科学系の経済史研究者に参加していただいている。コメンテーターは関西に限らず、東京や金沢などの各地から報告テーマに即した研究者に参加していただいた。いずれの報告に関しても活発に討論が行われ、報告・討論の時間を合わせて3時間半近くになることも多かった。なお、本研究班では定例の研究会に加えて班員による出版書の書評会も実施し(2016年10月9日石川亮太著『近代アジア市場と朝鮮』、11月18日陳來幸著『近代中国の総商会制度』)、中国の「制度」をさらに多角的に研究する機会を設けた。
- 研究班員**  
 所内：村上衛、石川禎浩、岩井茂樹、籠谷直人、武上真理子、柴田陽一、望月直人、森川裕貴、木村可奈子  
 学内：貴志俊彦(地域研究統合情報センター)、小島泰雄(人間・環境学研究科)、高嶋航(文学研究科)、江田憲治(人間・環境学研究科)、秋田朝美(経済学研究科)、郭まいか(文学研究科)、久保田裕次(公共政策大学院)、谷雪妮(文学研究科)、都留俊太郎(文学研究科)、李ハンキョル(文学研究科)、凌鵬(文学研究科)、駒込武(教育学研究科)、奈良岡聰智(法学研究科)、彭鵬(人間・環境学研究科)、王天馳(文学研究科)、上島享(文学研究科)、北村由美(附属図書館)、岩本真利絵(文学研究科)、太田出(人間・環境学研究科)、瞿艶丹(文学研究科)、潘藝心

(人間・環境学研究科)

- 学外：山崎岳 (奈良大学), 石川亮太 (立命館大学), 上田貴子 (近畿大学), 易星星 (兵庫県立大学), 大坪慶之 (三重大学), 岡本隆司 (京都府立大学), 荻恵里子 (京都府立大学), 小野寺史郎 (埼玉大学), 片山剛 (大阪大学), 加藤雄三 (国際日本文化研究センター), 金丸裕一 (立命館大学), 蒲豊彦 (京都橋大学), 菊池一隆 (愛知学院大学), 木越義則 (名古屋大学), 楠原俊代 (同志社大学), 小林亮介 (京都府立大学), 兒玉州平 (九州産業大学), 坂井田夕起子 (桃山学院大学), 城地孝 (同志社大学), 城山智子 (東京大学), 園田節子 (兵庫県立大学), 瀧田豪 (京都産業大学), 田口宏二郎 (大阪大学), 田中剛 (帝京大学), 団陽子 (神戸大学), 陳来幸 (兵庫県立大学), 富澤芳亜 (島根大学), 豊岡康史 (信州大学), 西山喬貴 (University College London), 根無新太郎 (京都府立大学), 狭間直樹 (京都大学), 浜田直也 (神戸女子大学), 細見和弘 (立命館大学), 堀地明 (北九州市立大学), 松村光庸, 丸田孝志 (広島大学), 三田剛史 (明治大学), 宮内肇 (立命館大学), 村尾進 (天理大学), 森時彦 (京都大学), 吉田建一郎 (大阪経済大学), 吉田豊子 (京都産業大学), 劉雯 (兵庫県立大学), 鷲尾浩幸 (北海道大学), 彭浩 (大阪市立大学), 刁成林 (立命館大学), 篠原由華 (同志社大学), 奥村哲 (首都大学東京), 梶谷懐 (神戸大学), 箱田恵子 (京都女子大学), 濱島敦俊 (大阪大学), 平井健介 (甲南大学)
- 1912) : W. W. Rockhill との関係を中心に  
 発表者：小林亮介 (京都府立大学)  
 コメンテーター：岡本隆司 (京都府立大学)
- 6月3日 「支那を識るの途」：橘樸の中国論の視座をめぐって  
 発表者：谷 雪妮 (文学研究科)  
 コメンテーター：石井知章 (明治大学)
- 6月18日 第一次世界大戦時期における杜亜泉の西洋認識について  
 発表者：李ハンキョル (文学研究科)  
 コメンテーター：小野寺史郎 (埼玉大学)
- 7月1日 清代北京の食糧流通  
 発表者：堀地 明 (北九州市立大学)  
 コメンテーター：田口宏二郎 (大阪大学)
- 7月8日 琉球王国の西洋船迎接体制  
 発表者：張 子康 (文学研究科)  
 世紀転換期の香港衛生政策と潔浄：1907年の調査委員会報告から考える  
 発表者：小堀慎悟 (文学研究科)  
 コメンテーター：渡辺美季 (東京大学)  
 コメンテーター：古泉達矢 (金沢大学)
- 7月15日 「中法越南边界通商章程」(1886年)における「交犯」条項：その成立と適用をめぐって  
 発表者：望月直人  
 コメンテーター：青山治世 (亜細亜大学)
- 10月14日 中国近世の「租佃関係」に対する認識：理論的な検討  
 発表者：凌 鵬 (文学研究科)  
 コメンテーター：岸本美緒 (お茶の水女子大学)
- 10月28日 「日中戦争期から太平洋戦争期 1937-45年」における台湾人の移動
- 研究実施内容  
 2016年  
 4月22日 仲介者の効用：研究班を開始するにあたり  
 発表者：村上 衛  
 コメンテーター：梶谷 懐 (神戸大学)
- 5月20日 グライラマ13世の亡命と外交 (1904-

- |        |   |   |
|--------|---|---|
|        | 発表者：巫 靚<br>(人間・環境学研究科)  | 東アジア古典文献コーパスの実証研究<br>班長 安岡孝一  |
|        | コメンテーター：遠藤正敬<br>(早稲田大学)   | 研究期間 2016年04月-2019年03月(1年度目)<br>研究実施状況  |
| 11月11日 | 「支那通」僧侶と日中戦争：日中仏教提携の夢と蹉跌<br>発表者：坂井田夕起子<br>(桃山学院大学)<br>コメンテーター：渡辺祐子<br>(明治学院大学)    | 平成28年度前半は、漢文における「形容詞」を「動詞」と統合した際の副作用を研究した。具体的には、『全訳漢辞海』『簡明古漢語詞典』『文言文字典』『古漢語語法』『漢語文言語法』『漢語文言語法』などの漢文辞書・文法書において、すでに「形容詞」と分類されてしまっている形態素を「動詞」とみなす場合、素性あるいは小素性をどのように調整すべきかを研究した。平成28年度後半は、動詞句の文型を解析するツール作成の足掛かりとして、数々の動詞句の文型を手作業で解析し、その手法をコンピュータに反映させることを考えた。この研究過程において、我々は、S式によって漢文のメタ文法(文法の文法)を記述する手法を開発した。S式による漢文のメタ文法記述を元に、そこから生成される漢文文法を、実際の漢文に適用していくことで、本手法の妥当性および有効性を検証中である。 |
| 11月25日 | 1930年代中国における「日蘭会商」：砂糖専売制をめぐる攻防<br>発表者：平井健介(甲南大学)<br>コメンテーター：籠谷直人                  |   |
| 12月16日 | 嘉慶“維新”の背景とその目的：景況と漢化<br>発表者：豊岡康史(信州大学)<br>コメンテーター：岩井茂樹                            |   |
| 2017年  |   | 研究班員<br>所内：Christian Wittern, 池田巧, 守岡知彦<br>学外：山崎直樹(関西大学), 二階堂善弘(関西大学), 師茂樹(花園大学), 鈴木慎吾(大阪大学)  |
| 2月3日   | 清末内地通行許可書護照について：「日本臣民」に交付されたものを中心に<br>発表者：篠原由華(同志社大学)<br>コメンテーター：陳 來幸<br>(兵庫県立大学) |   |
| 2月17日  | 鎮江租界の終焉：返還交渉めぐって<br>発表者：加藤雄三<br>(国際日本文化研究センター)<br>コメンテーター：久保 亨<br>(信州大学)          | 研究実施内容<br>2016年<br>4月22日 研究班活動方針<br>5月6日 『全訳漢辞海』の形容詞<br>5月20日 『文言文字典』の形容詞、中国の漢文文法における「使動用法」「意動用法」「為動用法」<br>6月3日 張貽惠『古漢語語法』(湖北人民出版社, 1957年6月)の形容詞, 劉景農『漢語文言語法』(中華書局, 1958年8月)の形容詞, 李新魁『漢語文言語法』(廣東人民出版社, 1983年6月)の形容詞, Edwin G. Pulleyblank『Outline of Classical Chinese Grammar』(UBC Press, 1995年)のAdjectives<br>6月24日 動詞句文型解析   |
| 3月3日   | 奉天同善堂に集まる人々：棲流所と游民・貧民対策条約裁判所<br>発表者：上田貴子(近畿大学)<br>コメンテーター：蒲 豊彦<br>(京都橘大学)         |   |
| 3月17日  | 1920年代の中国地質学と日本<br>発表者：武上真理子<br>コメンテーター：山田俊弘<br>(東京大学)                            |   |

- 7月15日 動詞句文型解析
- 7月30日 人文科学とコンピュータ第111回研究発表会
- 9月2日 Chinese Treebank 9.0, Part-of-Speech Tagging Guidelines for Penn Treebank Project
- 9月30日 Sinica Treebank Version 3.0
- 10月14日 phpSyntaxTree, Chinese Text Analyzer
- 11月18日 仮決めのメタ文法 (S式)
- 12月2日 仮決めのメタ文法 (S式, ちょっと改良)
- 12月16日 仮決めのメタ文法 (S式)
- 1月13日 仮決め文法サンプル (十八史略)
- 1月27日 品詞分類 (2017.1.27版)
- 2月10日 2016年度の小総括

**東アジアの宗教文化と自然学** 班長 武田時昌  
 研究期間 2015年04月-2017年03月(2年度目)  
 研究実施状況

東アジアの自然学の形成と展開において、宗教文化の果たした役割について、宇宙論や象数易の近世の展開を中心的な論題として考察した。会読テキストとして取り上げたのは、円通『仏国曆象編』、『卜筮元龜』であり、担当者による訳注を検討しながら、班員による研究発表を行った。円通『仏国曆象編』については、梵曆、須弥山説に関する論説の未読部分(巻5)を会読を続行するとともに、既読部分(巻3-4)の訳稿を再検討した。『卜筮元龜』については、京都大学附属図書館所蔵清家文庫本の読解を進めるとともに、建仁寺両足院、天理大学図書館及び北京国家図書館、鎮江市図書館が所蔵する異本の合同調査を行い、諸本を比較することによって、その数理構造を考察し、京氏易や道教、陰陽道との関連性を探った。7月には招聘客員教授の余欣氏(復旦大学教授)を中心に道教、仏教のなかの自然学をめぐる特別講演会を開催し、9月には巴蜀文献プロジェクトを推進する四川大学古籍研究所の研究者を招聘し、近世思想文化に関する国際ワークショップを実施した。

研究班員

- 所内: 武田時昌, Bill Mak, 高井たかね  
 学内: 呂鵬(文学研究科), 上田真啓(文学研究科), 伊藤裕水(文学研究科D2)  
 学外: 前原あやの(関西大学), 林隆夫(同志社大学), 宮島一彦(同志社大学), 清水浩子(大正大学), 矢野道雄(京都産業大学・名誉教授), 梅林誠爾(熊本県立大学・名誉教授), 白雲飛(大阪府立大学・客員研究員), 平岡隆二(熊本県立大学・准教授), 岡田正彦(天理大学・教授), 吉田薫(日本スペースガード協会), 佐々木聡(大阪府立大学・特別研究員), 福島雅淳(神戸学院大学), 名和敏光(山梨県立大学), 古藤友子(国際基督教大学), 宮崎順子(大阪市立大学), 船橋優希, 奈良場勝(暁星高校教諭), 倉橋弘美, 大野裕司(北海道大学), 金東鎮(近畿大学)

研究実施内容

2016年

- 4月1日 『仏国曆象編』巻三「探大蔵中出梵曆立法不同十二」(続)  
 発表者: 矢野道雄(京都産業大学)
- 4月28日 『仏国曆象編』巻三「探大蔵中出梵曆立法不同十二」(続)  
 発表者: 小林博行(中部大学)
- 『仏国曆象編』巻三「辨曆之啓閉起於印度」  
 発表者: 矢野道雄(京都産業大学)
- 5月18日 『仏国曆象編』巻三「辨曆之啓閉起於印度」(続)  
 発表者: 矢野道雄(京都産業大学)
- 『仏国曆象編』巻三「論皇國曆首三鏡及八將神等本梵曆」  
 発表者: 宮島一彦(同志社大学)
- 『仏国曆象編』巻三「辨印度辰法」  
 発表者: 矢野道雄(京都産業大学)
- 6月16日 『仏国曆象編』巻五「擧周髀之正以徵西説不經」(続), 「論金邊山及閩浮樹可得而窺」

- 発表者：矢野道雄（京都産業大学）  
7月3日 アジアの宗教と科学  
天台宗の仏教天文学研究—新発見の  
園城寺所蔵資料をめぐって  
発表者：武田時昌  
（人文科学研究所・教授）  
インド占星術と『宿曜経』 発表者：矢野道雄  
（京都産業大学・名誉教授）  
投龍新探—唐宋における道教文化と博物学  
発表者：余 欣  
（復旦大学・教授,  
人文科学研究所・招聘客員教授）  
7月21日 『仏国暦象編』巻五「辨南極之義」  
発表者：Bill Mak  
8月18日 「仏僧による地球説批判」  
発表者：清水浩子  
（大正大学・非常勤）  
『仏国暦象編』巻五「論印度星曆説不  
来此上者多」 発表者：上田真啓  
（文学研究科・非常勤）  
『仏国暦象編』巻五「證印度測曜宿高  
卑其傳甚久」 発表者：矢野道雄  
（京都産業大学）  
9月3日 中国近世学術文化国際ワークショップ  
日本残存巴蜀文献研究  
発表者：白井 順  
（四川大学古籍整理研究所・副研究員）  
杜甫と蘇東坡の題画詩について  
発表者：宇佐美文理  
（京都大学文学研究科・教授）  
朱熹『大同集』の文献学的考察  
発表者：尹 波  
（四川大学古籍整理研究所・所長）  
コメンテーター：三浦國雄  
（四川大学文化科技協同創新研  
究中心・教授）  
9月15日 「江戸時代の儒者・中山城山の天文暦  
算学」 発表者：前原あやの  
（関西大学・非常勤）  
『仏国暦象編』巻五「論侍天形服翳月  
光之説」 発表者：清水浩子  
（大正大学・非常勤）  
10月13日 『仏国暦象編』巻五「駁周覽地球妄談」  
発表者：小林博行（中部大学）  
『仏国暦象編』巻五「眼智第五」  
発表者：梅林誠爾（熊本県立大学）  
11月17日 「西安・洛陽における天文文物に  
関する調査報告」  
発表者：福島雅淳（神戸学院大学）  
『仏国暦象編』巻五「詳天眼相」  
発表者：福島雅淳（神戸学院大学）  
『仏国暦象編』巻五「詳修天眼法」  
発表者：前原あやの（関西大学）  
12月22日 『仏国暦象編』巻五「詳修天眼法」  
（続） 発表者：小林博行（中部大学）  
『仏国暦象編』巻五「辨天眼之事誠實」  
発表者：梅林誠爾（熊本大学）  
2017年  
1月19日 『仏国暦象編』巻五「七明人皆固有  
天眼之性」  
発表者：小林博行（中部大学）  
「兩曜運旋略儀」について：佐田介石  
の「視實等象儀」との関係の検討  
発表者：梅林誠爾（熊本大学）  
『仏国暦象編』巻五「比較外典以釋如  
來藏性之義」 発表者：福島雅淳  
（神戸学院大学）  
2月16日 『仏国暦象編』巻五「比較外典以釋如  
來藏性之義」（続）  
発表者：福島雅淳（神戸学院大学）  
『仏国暦象編』巻五「明修天眼依地」  
発表者：清水浩子（大正大学）  
3月7日 『仏国暦象編』巻五「明修天眼有解  
釋證之三」  
発表者：上田真啓（文学研究科）  
『仏国暦象編』巻五「明智自四」  
発表者：宮島一彦  
（同志社大学）  
『破鏡』は『半鏡』に非ず  
発表者：白雲 飛  
（大阪府立大学）



彙 報

<p><b>北朝石窟寺院の研究</b> 班長 岡村秀典</p> <p>研究期間 2015年04月-2018年03月(2年度目)</p> <p>研究実施状況</p> <p>水野清一・長廣敏雄『雲岡石窟』(全16巻32冊, 1951~1956年)図版解説の会読を隔週の研究会で実施し、本年度は第13洞から第16洞までを検討した。さらに水野清一・長廣敏雄『龍門石窟の研究』(座右宝刊行会, 1941年)の中国語版を出版するのに合わせ、当研究所に所蔵する龍門二十品(北魏造像記)の拓本を整理し、その会読を隔週の研究会で実施した。その成果報告は2017年度の『東方学報』に掲載する予定である。また、当研究所と中国社会科学院考古研究所との共同編集により中国の科学出版社から刊行している『雲岡石窟』中英語版のうち第二期分(第8~第16巻)までは2015年度に出版された。新たに執筆編集する第三期(第17~20巻)の日本語版4巻9冊は2016年6月に刊行され、中国語版は2017年度に刊行の予定である。</p> <p>研究班員</p> <p>所内: 安岡孝一, 稲本泰生, 高橋早紀子</p> <p>学内: 内記理(文化財総合研究センター)</p> <p>学外: 田中健一(大阪大谷大学), 外山潔(泉屋博古館), 齋藤龍一(大阪市立美術館), 山名伸生(京都精華大学), 向井佑介(京都府立大学), 大西磨希子(佛教大学), 石松日奈子(清泉女子大学), 濱田瑞美(横浜美術大学), 佐藤智水(龍谷大学), 田林啓(白鶴美術館), 黄盼(京都府立大学)</p> <p>研究実施内容</p> <p>2016年</p> <p>4月12日 雲岡石窟第十三洞 発表者: 桑原正明(京都大学文学研究科)</p> <p>4月26日 雲岡石窟第十三洞 発表者: 桑原正明(京都大学文学研究科)</p> <p>5月10日 雲岡石窟第十三洞 発表者: 岡村秀典</p> <p>5月17日 雲岡中期における佛教圖像の變容 発表者: 岡村秀典</p> <p>人文研所蔵の龍門石窟拓本とその整理について 発表者: 安岡素子</p> <p>5月24日 雲岡石窟第十四洞</p>	<p>6月7日 長樂王丘穆陵亮夫人尉遲氏造像記 発表者: 岡村秀典</p> <p>6月14日 雲岡石窟第十四洞 発表者: 向井佑介(京都府立大学)</p> <p>6月21日 一弗, 比丘慧成(始平公)造像記 発表者: 岡村秀典</p> <p>6月25日 雲岡石窟第十五洞 発表者: 向井佑介(京都府立大学)</p> <p>7月5日 北海王元詳造像記 発表者: 岡村秀典</p> <p>7月12日 雲岡石窟第十五洞 発表者: 向井佑介(京都府立大学)</p> <p>7月19日 北海王国太妃高, 解伯達造像記 発表者: 岡村秀典</p> <p>7月26日</p> <p>10月4日 楊大眼造像記 発表者: 稲本泰生</p> <p>10月11日 雲岡石窟第十六洞 発表者: 向井佑介(京都府立大学)</p> <p>10月18日 比丘道匠造像記, 鄭長猷造像記 発表者: 稲本泰生</p> <p>10月25日 雲岡石窟第十六洞 発表者: 向井佑介(京都府立大学)</p> <p>11月1日 魏靈藏薛法紹造像記, 晋東南部北朝石窟踏査報告 発表者: 岡村秀典</p> <p>11月8日 雲岡石窟第十六洞 発表者: 向井佑介(京都府立大学)</p> <p>11月15日 孫秋生等造像記 発表者: 稲本泰生</p> <p>11月22日 雲岡石窟第十六洞 発表者: 向井佑介(京都府立大学)</p> <p>12月6日 高樹解伯都等造像記, 比丘惠感造像記 発表者: 岡村秀典</p> <p>12月13日 雲岡石窟第十六洞 発表者: 向井佑介(京都府立大学)</p> <p>2017年</p> <p>1月10日 雲岡石窟第十六洞 発表者: 向井佑介(京都府立大学)</p> <p>1月17日 太妃侯為亡夫賀蘭汗, 廣川王祖母太妃侯造像記 発表者: 稲本泰生</p> <p>1月24日 雲岡石窟第十六洞 発表者: 向井佑介(京都府立大学)</p> <p>1月31日 馬振拜等, 比丘尼慈香慧政造像記</p>
--	--

人 文 学 報

- 発表者：岡村秀典 研究実施内容
- 2月7日 齊郡王元祐造像記 発表者：稲本泰生 2016年
- 2月14日 雲岡石窟第十六洞 発表者：向井佑介 4月22日 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア  
(京都府立大学)
- 2月21日 比丘法生、安定王元變造像記 発表者：岡村秀典  
Abū Dulaf Mis'al ibn Muhalhil, Risāla al-awwal 会読  
発表者：稲葉 穰 (人文科学研究所)
- 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア 5月13日 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア  
班長 稲葉 穰  
Abū Dulaf Mis'al ibn Muhalhil, Risāla al-awwal 会読  
発表者：中西竜也 (人文科学研究所)
- 研究期間 2015年04月-2018年03月(2年度目) 5月27日 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア  
研究実施状況  
Abū Dulaf Mis'al ibn Muhalhil, Risāla al-awwal 会読  
発表者：中西竜也 (人文科学研究所)  
発表者：杉山雅樹 (京都大学文学研究科)
- 本研究班は、中央アジア、南アジア、西アジアのフロンティアとしての「歴史的アフガニスタン」およびその周辺において何が起きてきたのか、そこを越えて移動した人やモノはフロンティアを超えた先でいかに機能したのかを、文献資料や出土資料をもとに検討し、「前近代におけるグローバリズム」がいかなる実態を持っていたのかを明らかにすることを目的として計画された。本年はアフガニスタンの周辺地域における多様な文化交流に関する研究報告と並んで、9世紀に Abu Dulaf によって執筆されたアラビア語の旅行記であるいわゆる『第一書簡』の会読を終え、続く『第二書簡』会読の準備を行った。会読の成果は訳注としてまとめる予定である。
- 6月10日 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア  
Abū Dulaf Mis'al ibn Muhalhil, Risāla al-awwal 会読  
発表者：中西竜也 (人文科学研究所)  
発表者：杉山雅樹 (京都大学文学研究科)
- 研究班員
- 所内：船山徹、稲本泰生、中西竜也、岩尾一史、宮本亮一 (特別研究員)
- 学内：井谷鋼造 (文学研究科)、吉田豊 (文学研究科)、帯谷知可 (地域研究統合情報センター)、今松泰 (アジア・アフリカ地域研究研究科)、内記理 (文化財総合研究センター)、杉山雅樹 (文学研究科)、大津谷馨 (文学研究科博士後期課程)
- 学外：和田郁子 (岡山大学)、川本正知 (奈良学園大学)、入澤崇 (龍谷大学)、小野浩 (京都橘大学)、真下裕之 (神戸大学)、岩井俊平 (龍谷大学)、井上陽 (龍谷大学)、影山悦子 (奈良文化財研究所)、上枝いづみ (龍谷大学)、田中悠子 (ロンドン大学)
- 6月24日 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア  
シリアでのアラビア文字刻銘文資料調査の旅から — 2006年3月のディマシク、ハマー、ハラブー  
発表者：井谷鋼造 (京都大学文学研究科)
- 7月8日 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア  
Social Networks on the Silk Road: Social Network Analysis in Ancient History  
発表者：Tomas Larsen Hoisæter (人文科学研究所)
- 7月22日 前近代ユーラシアにおけるフロンティア

- アとトランス・フロンティア  
チャガタイ・ウルスとカラウナス=ニクダリヤーン：ラシード・ウッディー  
ンの記述の再検討  
発表者：川本正知（奈良学園大学）
- 9月23日 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア  
Abū Dulaf Mis'al ibn Muhalhil, Risāla al-awwal 会読 発表者：杉山雅樹（京都大学文学研究科）
- 10月14日 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア  
カシミール史料におけるミールザー・ハイダル 発表者：小倉智史（日本学術振興会）
- 10月28日 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア  
馬徳新とイブン・アラビーの終末論—19世紀における中国イスラームの新展開 発表者：中西竜也（人文科学研究所）
- 11月25日 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア  
「ラシード写本ミニアチュール研究」科研インド調査報告—ランブル写本とコルカタ写本紹介—  
発表者：川本正知（奈良学園大学）
- 12月9日 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア  
ブハラにおけるスンナ派・シーア派関係：イラン人の動向を中心に  
発表者：木村 暁（京都外国語大学）
- 2017年
- 1月13日 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア  
ロシア帝政期南東コーカサスにおける裁判制度 発表者：塩野崎信也（日本学術振興会）
- 2月10日 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア  
ザラフシャン川流域の遺跡—サマ  
ルカンド近郊のカフィル・カラ遺跡を中心に—  
発表者：アリーシェール・ベグマトフ（京都大学大学院文学研究科）
- 3月10日 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア  
Abu Dulaf 第二書簡会読 発表者：稲葉 稜（人文科学研究所）
- 3月24日 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア  
Abu Dulaf 第二書簡会読 発表者：稲葉 稜（人文科学研究所）
- 毛沢東に関する人文学的研究 班長 石川禎浩  
研究期間 2015年04月—2018年03月（2年度目）  
研究実施状況  
初年度に蓄積した成果を生かしつつ、研究目的の達成にさらに近づくべく活動を進めた。活動形式は初年度同様、隔週開催の研究班例会を中心とし、まず報告者が1時間半程度の報告を行ったあと、コメントーターが30分程度の批評を加え、その上で全体討論を実施するという形式を取った。報告用レジュメを事前に班員に配布していることもあり、活発な議論がなされたことは初年度同様であるが、本年度は初年度の成果をふまえた、より詳細で実証的な報告・討論が可能となった。また、コメントーターとして班外部の複数の専門家を招聘しており、そのコメントを通じて、これまで以上により多角的に毛沢東に迫る視座を獲得しつつある。なお、アメリカの研究者に、最新の毛沢東研究について報告してもらおう機会を設け、近年の日本ではあまり重視されていない英語圏における毛沢東研究の水準や課題について知見を得ることもできた。
- 研究班員  
所内：岩井茂樹、柴田陽一（研究員）、武上真理子、村上衛、森川裕貫、望月直人（研究員）  
学内：江田憲治（人間環境学研究科）、瞿艶丹（文学研究科）、谷雪妮（文学研究科）、高

人 文 学 報

- 嶋航 (文学部), 李ハンキョル (文学研究科), 祝世潔 (文学研究科)
- 10月21日 毛沢東と五四 発表者: 森川裕貫  
 コメンテーター: 鈴木将久 (一橋大)
- 学外: 小野寺史郎 (埼玉大), 韓燕麗 (関西学院大), 韓敏 (国立民族学博物館), 島田美和 (慶應義塾大), 瀬戸宏 (摂南大), 瀬辺啓子 (仏教大), 田中仁 (大阪大), 谷川真一 (神戸大), 団陽子 (神戸大), 中村元哉 (津田塾大), 丸田孝志 (広島大), 三田剛史 (明治大), 水羽信男 (広島大), 山崎岳 (奈良大), 楊韜 (仏教大), 吉田豊子 (京都産業大), 李冬木 (仏教大), 緒形康 (神戸大), 楠原俊代 (同志社大)
- 11月4日 China under Mao: A Revolution Derailed 発表者: Andrew Walder  
 (スタンフォード大)  
 コメンテーター: 谷川真一 (神戸大)
- 11月18日 毛沢東時代のシェイクスピア上演—上海青年話劇団『空騒ぎ』(1961年)を中心に  
 発表者: 瀬戸 宏 (摂南大)  
 コメンテーター: 瀬辺啓子 (仏教大)
- 12月9日 “階級闘争, 一抓就靈” から “要武嘛” へ—毛沢東の闘争戦略とその帰結(上)  
 発表者: 岩井茂樹  
 コメンテーター: 三品英憲 (和歌山大)
- 研究実施内容
- 2016年
- 4月13日 毛沢東と文藝—『毛沢東文藝生涯』を読む  
 発表者: 瀬辺啓子 (仏教大)  
 コメンテーター: 江田憲治 (総合人間)
- 5月13日 毛沢東の題字と社会への浸透  
 発表者: 韓 敏 (国立民族学博物館)  
 コメンテーター: 瀬戸 宏 (摂南大)
- 5月27日 中台分断下の戦後香港における毛沢東派—『盤古』を中心に  
 発表者: 中村元哉 (津田塾大)  
 コメンテーター: 森川裕貫
- 6月10日 毛沢東思想学院について  
 発表者: 李 冬木 (仏教大)  
 発表者: 楊 韜 (仏教大)  
 コメンテーター: 安井三吉 (神戸大 (名誉教授))
- 6月24日 毛沢東の知識人観: 統一戦線・資産階級との関連から  
 発表者: 水羽信男 (広島大)  
 コメンテーター: 緒形 康 (神戸大)
- 9月23日 毛沢東思想学院宣伝隊に関する考察—ドキュメンタリー映画『夜明けの国』の上映活動を中心に  
 発表者: 楊 韜 (仏教大)  
 コメンテーター: 晏 妮 (日本映画大)
- 2017年
- 1月13日 巴西会議 (1935年9月) は開かれたのか?—長征史の一断面—  
 発表者: 緒形 康 (神戸大)  
 コメンテーター: 田中 仁 (大阪大)
- 2月10日 毛沢東時代のナショナリズムとインターナショナリズム  
 発表者: 小野寺史郎 (埼玉大)  
 コメンテーター: 島田美和 (慶應義塾大)
- 2月24日 石川禎浩『赤い星は如何にして昇ったか』合評会  
 コメンテーター: 加々美光行 (愛知大)  
 コメンテーター: 田中 仁 (大阪大)  
 コメンテーター: 三田剛史 (明治大)
- 楽しんで読む戦国竹書—中国古代の基礎史料  
 班長 浅原達郎
- 研究期間 2016年04月—2019年03月 (1年度目)
- 研究実施状況  
 2015年度末には『清華大学蔵戦国竹簡』第2冊の纂年を読み終えそうな勢いだったが、最終章

の第二十三章に手間どって、年度が変わっても、4月15日から5月13日まではそれを読んでた。そのあとやっと第三冊に入り、5月20日から7月22日までは説命上中下、9月30日から11月4日までは周公之琴舞、11月4日から12月16日まではぜい良夫ひを読んだ。繋年の最終章に時間を食ったのはうれしい誤算で、ここをていねいに読むことによって、前章を読むまでは思いもよらなかった作者の意図が見えてきた。それにもとづいて、繋年の構図を読み解く一篇をまとめることができたのが大きな収穫である。この文章は楽しんで書くことができたし、また2年間の読書で得た知見が自然と盛り込まれたのがうれしい。いまから思えば、神ってたと言ってもいいかもしれない。『日古』第26号(4月15日)、第27号(9月30日)を発行した。第26号には、上海博物館蔵楚簡の競公瘡、孔子見季桓子についての読書札記、清華大学蔵簡・繋年にかかわる雑談を掲載した。第27号には上海博物館蔵楚簡の莊王既成・申公臣靈王、平王問鄭壽・平王与王子木についての読書札記、また繋年にかかわる前述の論文を掲載した。バックナンバーまでふくめて、『日古』をどこか片隅にでも置いていただけないかとお願ひしたところ、こころよく許して下さった人文科学研究所図書室に感謝する。会合を開いて竹書を読む形式をとっているが、限界が見えて来たので、来年度からは大胆に変更しようと思っている。

研究班員

所内：宮紀子、守岡知彦  
学外：森賀一恵(富山大学)

東方文化学院京都研究所旧蔵漢籍の整理と研究

班長 矢木 毅

研究期間

2016年04月-2021年03月(1年度目)

研究実施状況

毎週水曜日、14時より16時まで、分館書庫にて開催(12月以降は避寒のため、本館講義室にて開催)。前期は4月13日より7月27日まで(計15回)。後期は10月12日より2月1日まで(計13回)。合計28回の研究会を開催。毎回の検討の成果を「典拠情報」としてまとめ、「全国漢籍データ

ベース」にリンクさせた形でウェブ上に公開している。関連する成果として、『朝鮮本十選』と題する図録(センター資料叢刊第二十二冊)を東アジア人文情報学研究センターより刊行した。また2017年1月20日開催の合同シンポジウム「東方文化研究の記憶と遺産」に際し、企画展示品の解題図録を作成した。

研究班員

所内：井波陵一、クリスティアン・ウィッテルン、古勝隆一、高井たかね、土口史記、永田知之、藤井律之、宮宅潔、目黒杏子  
学内：道坂昭廣(人間環境学研究科)  
学外：小林隆道(神戸女学院大学)

研究実施内容

2016年

- |       |                              |                    |
|-------|------------------------------|--------------------|
| 4月13日 | 東方文化学院京都研究所漢籍目録<br>史部政書類軍政之属 | 発表者：永田知之           |
| 4月20日 | 東方文化学院京都研究所漢籍目録<br>史部政書類軍政之属 | 発表者：高井たかね          |
|       | 史部政書類法令之属                    | 発表者：古勝隆一           |
| 4月27日 | 東方文化学院京都研究所漢籍目録<br>史部政書類軍政之属 | 発表者：永田知之           |
|       | 史部政書類法令之属                    | 発表者：古勝隆一           |
| 5月11日 | 東方文化学院京都研究所漢籍目録<br>史部政書類法令之属 | 発表者：古勝隆一           |
| 5月18日 | 東方文化学院京都研究所漢籍目録<br>史部政書類法令之属 | 発表者：古勝隆一           |
|       |                              | 発表者：クリスティアン・ウィッテルン |
| 5月25日 | 東方文化学院京都研究所漢籍目録<br>史部政書類法令之属 | 発表者：クリスティアン・ウィッテルン |
| 6月1日  | 東方文化学院京都研究所漢籍目録              |                    |

人 文 学 報

	史部政書類法令之属			発表者：目黒杏子
	発表者：クリスティアン・ ウィッテルン		陶湘刊行書	発表者：高井たかね
6月8日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 史部政書類法令之属	11月16日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 陶湘刊行書	発表者：高井たかね
	発表者：矢木 毅	11月30日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 史部政書類法令之属	発表者：高井たかね
	発表者：クリスティアン・ ウィッテルン	12月7日	中江文庫 集部楚辭類	発表者：高井たかね
6月15日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 史部政書類法令之属			発表者：クリスティアン・ ウィッテルン
	発表者：矢木 毅		集部別集類	発表者：古勝隆一
6月22日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 史部政書類法令之属	12月14日	中江文庫 集部別集類	発表者：古勝隆一
	発表者：藤井律之		集部別集類	発表者：高井たかね
6月29日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 史部政書類法令之属	12月21日	中江文庫 集部別集類	発表者：高井たかね
	発表者：藤井律之		集部別集類	発表者：土口史記
7月6日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 史部政書類法令之属	2017年		
	発表者：藤井律之	1月11日	中江文庫 集部別集類	発表者：土口史記
7月13日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 史部政書類法令之属			発表者：永田知之
	発表者：土口史記	1月18日	中江文庫 集部別集類	発表者：藤井律之
7月20日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 史部政書類法令之属	1月25日	中江文庫 集部別集類	発表者：宮宅 潔
	発表者：土口史記	1月25日	村本文庫 集部楚辭類・別集類	発表者：目黒杏子
7月27日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 史部政書類法令之属			
	発表者：宮宅 潔	2月1日	村本文庫 集部別集類	発表者：矢木 毅
10月12日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 史部政書類法令之属			
	発表者：宮宅 潔		漢籍リポジトリの基礎的研究	
10月19日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 史部政書類法令之属		班長 ウィッテルン クリスティアン	
	発表者：目黒杏子	研究期間	2016年04月-2021年03月(1年度目)	
10月26日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 史部政書類法令之属		本年度の研究実施状況	
	発表者：目黒杏子		今年度は全体の研究計画について議論が行いまし た。幾つかの方法と方向性を検討しました、そうし て秋にそれを研究助成金の申請書にまとめました。	
11月2日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 史部政書類法令之属		漢籍リポジトリの発展と利用者数を増やすために内 容の充実と正確性の向上を図る。あらに利用者ガリ	

ポジトリと接続する www サーバー, マンドクの編集ソフトと資料が提供する GitHub のクラウド・サービスの三者をつなぐワークフローについて議論しました。最後に具体的な課題としては distant reading の一つの方法であるテキスト・マイニングへのアプローチを検討に向けて準備が始まりました。

研究班員

所内：安岡孝一, 古勝隆一, 永田知之, 土口史記, ビル・マック

学内：宮崎泉 (文学研究科)

学外：白須裕之 (人文科学研究所研究員)

研究実施内容

2016 年

- 4 月26日 研究班の趣旨について
- 5 月10日 現在の www.kanripo.org の問題点
- 5 月24日 テキストの複数のバージョンの共同編集
- 7 月26日 DH2016 国際人文情報学会の報告とマンドク・ワークショップの準備について
- 9 月26日 逸文収集に必要な機能
- 10月11日 Franco Moretti, Distant reading と Maps, Graphs and Trees について
- 10月25日 研究助成金の申請書についての検討
- 11月22日 引用文の見付方 (1) : 近い文書を近くに並ぶ
- 12月13日 引用文の見付方 (2) : bigram, 接続確率と pointwise mutual information
- 1 月10日 漢籍リポジトリ目録の追加採録について
- 1 月24日 漢籍リポジトリにおける個人やグループによる注釈の取扱いについて

秦代出土文字史料の研究

班長 宮宅 潔

研究期間 2016 年 04 月-2021 年 03 月 (1 年度目)

研究実施状況

里耶秦簡・岳麓簡の概要を紹介し, その内容や研究状況について意見を交換したうえで, 項目 7 に示したように会読を進めた。これと平行して, 研究班の活動内容を紹介する HP を作成し, これを公開した (<http://www.shindai.zinbun.kyoto-u.ac.jp/>

index.html)。

研究班員

所内：土口史記, 鄭 威, 野口優, 藤井律之, 古勝隆一, 宮宅潔, 目黒杏子

学内：

学外：伊藤瞳 (関西大学・文学研究科・博士課程後期課程), 郭聡敏 (立命館大学・文学研究科・博士前期), 佐藤達郎 (関西学院大学文学部・教授), 角谷常子 (奈良大学文学部・教授), 齊偉玲 (奈良大学文学部・博士課程), 鷹取祐司 (立命館大学文学部・教授), 安永知晃 (関西学院大学・文学研究科博士課程後期課程), 吉川佑資 (同志社香里高校)

研究実施内容

2016 年

- 4 月 8 日 里耶秦簡概述 発表者：宮宅 潔
- 4 月15日 岳麓簡概述 発表者：宮宅 潔
- 4 月22日 里耶秦簡会読 ⑧ 510~⑧ 547  
発表者：土口史記
- 5 月 6 日 岳麓秦簡会読 1-12 発表者：宮宅 潔
- 5 月13日 里耶秦簡会読⑧ 548~⑧ 600  
発表者：鷹取祐司 (立命館大学)
- 5 月20日 岳麓簡会読 1-12 発表者：宮宅 潔
- 5 月27日 里耶秦簡会読⑧ 548~⑧ 600  
発表者：鷹取祐司 (立命館大学)
- 6 月 3 日 岳麓簡会読 1-12 発表者：宮宅 潔
- 6 月10日 里耶秦簡会読⑧ 548~⑧ 600  
発表者：鷹取祐司 (立命館大学)
- 6 月17日 岳麓簡会読 13-22 発表者：藤井律之
- 6 月24日 里耶秦簡会読⑧ 548~⑧ 600  
発表者：鷹取祐司 (立命館大学)
- 7 月 1 日 岳麓簡会読 13-22 発表者：藤井律之
- 7 月 8 日 里耶秦簡会読⑧ 548~⑧ 600  
発表者：鷹取祐司 (立命館大学)
- 7 月15日 岳麓簡会読 13-22 発表者：藤井律之
- 7 月22日 里耶秦簡会読⑧ 548~⑧ 600  
発表者：鷹取祐司 (立命館大学)
- 7 月29日 岳麓簡会読 23-32 発表者：野口 優
- 9 月16日 里耶秦簡会読⑧ 601~⑧ 647  
発表者：佐藤達郎 (関西学院大学)

- 9月23日 岳麓簡会読 23-32 発表者：野口 優 「謝勅爲建涅槃懺啓」, 「悔高慢文」, 「懺悔文」, 「群臣請隋陳武帝懺文」, 「摩訶波若懺文」, 「金剛波若懺文」, 「勝天王般若懺文」, 「妙法蓮華經懺文」, 「金光明懺文」の会読を終えた。今後, 「大通方廣懺文」, 「虚空蔵菩薩懺文」, 「方等陀羅尼齋懺文」, 「薬師齋懺文」, 「沙羅齋懺文」, 「無礙會捨身懺文」の会読を進めて巻28の巻末まで読了する予定である。
- 9月30日 里耶秦簡会読⑧ 601~⑧ 647  
発表者：佐藤達郎 (関西学院大学)
- 10月14日 岳麓簡会読 23-32 発表者：野口 優
- 10月21日 里耶秦簡会読⑧ 601~⑧ 647  
発表者：佐藤達郎 (関西学院大学)
- 10月28日 岳麓簡会読 33-43 発表者：土口史記
- 11月4日 里耶秦簡会読⑧ 648-⑧ 657  
発表者：目黒杏子
- 11月18日 岳麓簡会読 33-43 発表者：土口史記
- 11月25日 里耶秦簡会読⑧ 648-⑧ 657  
発表者：目黒杏子
- 12月2日 岳麓簡 33-43 発表者：土口史記
- 12月9日 里耶秦簡 658-673  
発表者：角谷常子 (奈良大学)
- 12月16日 岳麓簡 44-52 発表者：目黒杏子
- 2017年
- 1月13日 里耶秦簡 658-673  
発表者：角谷常子 (奈良大学)
- 1月27日 里耶秦簡⑧ 674-702  
発表者：宮宅 潔
- 2月10日 岳麓簡 44-52 発表者：目黒杏子
- 2月17日 里耶秦簡⑧ 674-702  
発表者：宮宅 潔
- 2月24日 岳麓簡 44~52 発表者：目黒杏子
- 3月3日 里耶秦簡⑧ 674-702  
発表者：宮宅 潔
- 3月10日 岳麓秦簡の執法について  
発表者：土口史記
- 岳麓簡 53~59  
発表者：伊藤 瞳 (関西大学)
- 3月17日 里耶秦簡⑧ 703~736  
発表者：藤井律之
8. 共同研究会に関連した公表実績
- 中国在家の教理と經典 班長 船山 徹  
研究期間 2016年04月-2020年03月(1年度目)  
研究実施状況  
中国の南朝仏教における在家の活動を具体的に知るため, 今年は『広弘明集』巻28 悔罪篇の会読を集中的に行った。具体的には, 「広弘明集悔罪篇序」,
- 研究班員  
所内：船山徹, 稲本泰生, 稲葉穰, ウィッテルン, クリスティアン, 古勝隆一, 中西竜也, 趙晟佑  
学内：古勝亮 (大学院文学研究科), 趙ウニル (大学院文学研究科)  
学外：石垣明貴紀 (龍谷大学), 桐原孝見 (龍谷大学), 中西久味 (新潟大学), 松岡寛子 (仏教伝道教会), 村田みお (近畿大学)
- 研究実施内容
- 2016年
- 4月15日 研究班の趣旨説明 発表者：船山 徹
- 5月6日 「廣弘明集悔罪篇序」(終南山釋氏)の訳注作成 発表者：船山 徹
- 5月20日 「謝勅爲建涅槃懺啓」(梁簡文)の訳注作成 発表者：船山 徹
- 5月20日 「悔高慢文」(梁簡文)の訳注作成 発表者：船山 徹
- 6月3日 「懺悔文」(沈約)の訳注作成1 発表者：古勝 亮 (文学研究科)
- 6月17日 「懺悔文」(沈約)の訳注作成2 発表者：桐原孝見 (龍谷大学)
- 7月1日 「群臣請隋陳武帝懺文」(江總文)の訳注作成 発表者：古勝隆一
- 9月30日 「摩訶波若懺文」(梁高祖)の訳注作成 発表者：趙ウニル (文学研究科)
- 10月7日 「金剛波若懺文」(梁武帝)の訳注作成 発表者：中西久味 (新潟大学)
- 10月21日 「勝天王般若懺文」(陳宣帝)の訳注作成 発表者：中西竜也
- 11月18日 「妙法蓮華經懺文」(陳文帝)の訳注作成 発表者：船山 徹
- 12月2日 「金光明懺文」(陳文帝)の訳注作成 発表者：稲本泰生



彙 報

1月20日 「虚空蔵菩薩懺文」(陳文帝)の訳注作成 発表者：上島 享(京大文学研究科)	小池 郁子 啓蒙と文学—アドルフ美学における「人間性」の位置づけ— 藤井 俊之
2月3日 「方等陀羅尼齋懺文」(陳文帝)の訳注作成 発表者：中西竜也	19世紀および20世紀の演劇・映画史 小川佐和子 近代朝鮮の民族運動と東アジア 小野 容照
2月17日 「大通方廣懺文」(陳文帝)の訳注作成 発表者：船山 徹	在米日墨移民史の研究—環太平洋の視点から 徳永 悠 皇室の土地所有に関する歴史的研究 池田さなえ

個人研究

東方学研究部

人文学研究部

近代東アジアにおける日本の法と政治 南アジア, 日本, ヨーロッパにおける暴力, シュアリティ, 宗教 文学理論の研究 ヴェーダ文献の生成と伝承の研究 人種・エスニシティ論 日本の工業化とアジア商人のネットワーク	山室 信一 セク 田中 雅一 大浦 康介 藤井 正人 竹沢 泰子 籠谷 直人	清代の文化と社会 中国古代中世の法制 中国科学の思想史的考察 近代中国の財政と社会 先秦時代の金文 古代中国の考古学研究 イスラーム東漸史の研究 インド・中国における仏教の学術と実践	井波 陵一 富谷 至 武田 時昌 岩井 茂樹 浅原 達郎 岡村 秀典 稲葉 稔 船山 徹
近代天皇制の文化史的研究 19世紀および20世紀ヨーロッパの音楽史	高木 博志 岡田 暁生	仏教研究知識ベース—禅仏教を例として WITTERN, Christian 川西走廊の漢藏諸語の記述研究	
近代日本の芸術と西洋 イギリス・アイルランド近現代史 近世ヨーロッパの歴史叙述と政治思想 19世紀の日本社会 精神分析的知を思想史的に位置づける試み	高階絵里加 小関 隆 王寺 賢太 岩城 卓二 立木 康介	中国共産党史の研究 文字コード理論 秦漢時代の制度史 高麗官僚制度研究 中国注釈学史研究 近代中国における社会経済制度の変容	池田 巧 石川 禎浩 安岡 孝一 宮宅 潔 矢木 毅 古勝 隆一 村上 衛
近代トランスコーカサス(特にグルジア)における 匪賊 アフリカと南アジアにおける宗教・環境・身体性に 関する人類学的研究 東アジアにおける生命科学と「自然」 農業史の再構築 フランス象徴主義と文学的モダン 島崎藤村その他の近代文学者の作品研究—リアリズム, メディア, 帝国	伊藤 順二 石井 美保 瀬戸口明久 藤原 辰史 森本 淳生 HOLCA, Irina	東アジア仏教美術史の研究 中国中世近世の文学理論 中国イスラームの研究 文字定義情報に基づく文書表現系に関する研究 中国古代中世の官制史 東西資料によるモンゴル時代の文化交流と諸制度の研究 中国家具とその使用に関する研究 中国古代における領域支配の研究 秦漢期国家儀礼の研究 中華民国時期における知識人と政治	稲本 泰生 永田 知之 中西 竜也 守岡 知彦 藤井 律之 宮 紀子 高井たかね 土口 史記 目黒 杏子 森川 裕貴
近代日本民俗誌システムの研究 近代西洋医学発展史研究および身体論 アフリカ系アメリカ人の宗教文化, 教育, 社会運動	菊地 暁 田中祐理子		

## 事業概況

### ・ジャズ・コンサート（人文研アカデミー）

2016年5月3日

於 京都府立府民ホール アルティ  
すごいジャズには理由（わけ）がある

ピアノ：（ジャズ・ピアニスト）

フィリップ・ストレンジ

話者：岡田 暁生

### ・ビブリオトーク（人文研セミナー）

2016年5月15日

於 熊本市立図書館他

講師：（写真家）芥川 仁

講師：藤原 辰史

### ・連続セミナー（人文研アカデミー）

2016年5月26日、6月9日、30日

於 京都大学人文研本館 4F・大会議室

2016年の論点—いま、私たちが考えるべきこと

5月26日（木）日中関係とメディア報道

講演者：（同志社大学大学院

グローバル・スタ

ディーズ研究科教

授）加藤 千洋

司会：藤原 辰史

6月9日（木）“自民党改憲草案”を読む

講演者：山室 信一

司会：岩城 卓二

6月30日（木）「ひとはなぜ戦争をするのか」の  
人間学

講演者：立木 康介

講演者：田中祐理子

司会：小関 隆

### ・公開合評会（人文研アカデミー）

2016年5月28日、7月23日

於 京都大学人文研本館1階セミナー室1  
第一次世界大戦を考える

5月28日（土）アフリカを活用する—フランス

植民地からみた第一次世界大戦

（武蔵大学人文学部）平野千果子

（東京外国語大学名誉教授）

小川 了

小野 容照

7月23日（土）ナイチンゲールの末裔たち—  
〈看護〉から読みなおす第一次世  
界大戦

（龍谷大学文学部）荒木 映子

（甲南大学文学部）井野瀬久美恵

小関 隆

### ・連続セミナー（人文研アカデミー）

2016年6月16日～7月14日

於 京都大学東京オフィス

〈液化化する親密圏〉人文研アカデミー10周年企画  
@東京

6月16日（木）ポリアモリーと子ども

講演者：（一橋大学大学院）深海 菊絵

6月23日（木）「正しさらしきもの」を解放する  
“ゆるさ”

講演者：（音楽イベント・  
プロデューサー）

兩宮 優

6月30日（木）現代日本の同性婚ニーズ

講演者：（弁護士、同性婚

人権救済弁護団員）森 あい

7月7日（木）あたらしい「性の公共」をつく  
る

講演者：（ホワイトハンズ、

「風テラス」主宰）坂爪 真吾

7月14日（木）結婚と売春

講演者：田中 雅一

### ・夏期公開講座（人文研アカデミー）

2016年7月16日

於 京都大学人文科学研究所本館1階共通1講義  
室

名作再読—いま読んだらこんなに面白い10

出来の悪い正史—『晋書』を読む

講師：藤井 律之

彙 報

マルグリット・デュラス『愛人〈ラマン〉』をいま  
読みなおす

講師：森本 淳生

冷徹な人間分析 — 『韓非子』を読む

講師：富谷 至

・京都レクチャー 2016

2016年7月20日

於 京都大学人文科学研究所本館1階セミナー室1  
Hasegawa Shigure: On War Cooperation in  
Kagayaku

講演者：(博報財団国際日本研究  
フェローシップ招聘研究員/  
受託研究員) Sreedevi Reddy

・国際シンポジウム

2016年7月31日

於 京都大学人文科学研究所本館1階セミナー室1  
「人文学の危機」と文学研究 — いま文学理論に何が  
できるか

谷崎潤一郎『文章読本』の射程と可能性

講演者：(奈良教育大学) 日高 佳紀

時間とアイデンティティ — 安部公房を読む

講演者：(ニューヨーク市立大学)

リチャード・カリチマン

流動的なプロセスとしてのテキスト — 読む, 読み  
返す, 読み継ぐ, 書く, 流通させる

講演者：(フランス INALCO)

アンヌ・パイヤール=坂井

ディスカッサント：(北海道大学) 中村 三春

ディスカッサント：(関西学院大学) 岩松 正洋

司会：大浦 康介

・高校生のための夏期セミナー

2016年8月10日

於 京都大学人文科学研究所附属東アジア人情  
報学研究センター大会議室

漢字文化への誘い — 第4回「知の聖地によろこそ」

ネットの海に漢字を浮かべて — 漢字の人文情報学

講師：守岡 知彦

・東アジア人文情報学研究センター講習会

2016年度漢籍担当職員講習会 (初級)

第1日 (10月3日)

オリエンテーション 稲葉 穰

漢籍について (四部分類概説を含む)

永田 知之

カードの取り方 — 漢籍整理の実践

土口 史記

第2日 (10月4日)

工具書について 高井たかね

漢籍関連サイトの利用

(京都大学附属図書館学術支援課

電子リソース掛) 大西 賢人

実習を始めるにあたって 梶浦 晋

漢籍目録カード作成実習

第3日 (10月5日)

目録検索とデータベース検索 安岡 孝一

漢籍データ入力実習 (1)

第4日 (10月6日)

和刻本について

(京都大学文学研究科教授) 宇佐美文理

漢籍データ入力実習 (2)

第5日 (10月7日)

朝鮮本について 矢木 毅

実習解説 土口 史記

情報交換 安岡 孝一

2016年度漢籍担当職員講習会 (中級)

第1日 (11月7日)

オリエンテーション 稲葉 穰

経部について 古勝 隆一

叢書部について 藤井 律之

叢書と漢籍データベース 安岡 孝一

第2日 (11月8日)

史部について 宮宅 潔

漢籍データ入力実習 (1)

第3日 (11月9日)

子部について 中西 竜也

漢籍データ入力実習 (2)

第4日 (11月10日)

集部について

(京都大学人間・環境学研究科教授)

人 文 学 報

- 道坂 昭廣 ・公開講演会  
漢籍データ入力実習 (3) 2016年10月27日  
第5日 (11月11日) 於 京都大学人文研本館1階セミナー室1  
漢籍と情報処理 WITTERN, Christian ミシェル・ジャルティ講演会  
実習解説 土口 史記 最新版ポール・ヴァレリー著作集をめぐって (La  
情報交換 安岡 孝一 nouvelle édition des *Œuvres* de Paul Valéry)  
講演者: (パリ・ソルボンヌ大学教授)  
ミシェル・ジャルティ  
司会: 森本 淳生
- ・国際シンポジウム  
2016年10月15日  
於 京都大学人文科学研究所本館4階大会議室  
日清戦争期の東アジア  
東学農民戦争における南接と北接の問題について  
講演者: (圓光大学校教授) 朴 孟洙  
日清戦争期『香川新報』の甲午農民戦争報道  
講演者: (愛媛大学講師) 中川 未来  
アイヌ民族近代史を問い直す—日清戦争前後を中心  
に  
講演者: (北海道大学名誉教授) 井上 勝生  
コメント: (佛教大学教授) 原田 敬一  
司会: 高木 博志
- ・ビブリオトーク (人文研セミナー)  
2016年10月28日, 10月29日  
10月28日  
於 熊本市立図書館集会所  
震災と再生のビブリオトーク  
講師: (写真家) 長野 良市  
10月29日  
於 慶誠高校調理室  
キッチン・トーク  
話者: 藤原 辰史
- ・国際セミナー  
2016年10月22日  
於 京都大学人文科学研究所本館1階セミナー室1  
トランスパシフィック日系アメリカ人研究  
Asian American Culture on Stage: Transforming the  
View  
講演者: (南カリフォルニア大学)  
ベリーナ・ハス・ヒューストン  
コメンテーター: (神戸大学人文学研究科)  
アリーナ・アントン  
The Japanese and the Origins of the Orientalist  
Buddy Film  
講演者: (東京大学グローバルコミュニケーション  
研究センター) ブライアン・ロック  
コメンテーター: (カールトン大学・国際日本  
文化研究センター) マルシアーノ  
司会: (学術振興会外国人特別研究員/人文科学  
研究所外国人共同研究者) ライル・デ・スーザ
- ・国際ワークショップ (人文研アカデミー)  
2016年11月12日  
於 京都大学人文科学研究所本館1階セミナー室1  
中川文庫開設記念 東アジアで18世紀研究者であ  
ること—Hisayasu Nakagawa, *L'Esprit des Lu-  
mières en France et au Japon* をめぐって  
講演者: (ソウル国立大学文学部教授) 李 永睦  
講演者: (京都大学文学研究科教授) 増田 真  
講演者: (新潟大学人文社会・  
教育科学系教授)  
逸見 龍生  
森本 淳生  
司会: 王寺 賢太
- ・京都レクチャー 2016  
2016年11月22日  
於 京都大学人文科学研究所本館1階セミナー室  
Japan's Cultural Diplomacy in Asia in Historical  
Perspective  
講演者: (ヘブライ大学准教授/

彙 報

- 人文科学研究所招へい研究員) 於 京都大学人文科学研究所附属東アジア人文情  
OTMAZGIN, Nissim 報学研究センター 2階大会議室
- 東方文化研究の記憶と遺産  
人文科学研究所所蔵「華北交通写真」を例に  
石川 禎浩
- ・文学カフェ (人文研アカデミー)  
2016年11月25日  
於 京都大学人文科学研究所本館1階共通1講義  
室 陶湘の復刊書とその「愛書」について  
高井 たかね
- 人文研アカデミー文学カフェ「現代フィクションの 東洋文化研究所小史  
条件」 (東京大学) 大木 康
- 講師：(作家) 円城 塔 東洋文化研究所のコレクション  
講師：(文筆家) 千野 帽子 (東京大学) 真鍋 佑子  
司会：(関西学院大学教授) 久保 昭博 東アジア学術院所蔵資料の特徴と価値  
コメント：大浦 康介 (成均館大学) 李 吟昊
- 東アジア学術院の成果と課題  
(成均館大学) 高 銀美
- ・京都レクチャー 2016  
2016年12月7日  
於 京都大学人文科学研究所本館1階セミナー室1  
Voices from the Fukushima nuclear village (延世大学) 車 惠媛  
講演者：(リベラシオン紙アジア特派員) 延世大所蔵古文書の特徴  
Arnaud Vaulerin (延世大学) 都 賢喆
- ・京都レクチャー 2016  
2016年12月14日  
於 京都大学人文科学研究所本館1階セミナー室1  
Arts of Numbers: Fortune-telling Methods in Early  
Modern Japan  
講演者：(パリ第七大学准教授) Matthias Hayek
- ・京都レクチャー 2016  
2017年2月27日  
於 京都大学人文科学研究所本館1階セミナー室1  
The Archaic in the Modern Orikuchi shinobu on  
Man'yo Japan and Ryukyus  
講演者：(ナポリ大学・講師) Chiara Ghidini
- ・大浦康介教授・富谷至教授・山室信一教授退職記  
念講演会  
2017年3月13日  
於 京都大学時計台記念館百周年記念ホール  
三酔人 人文問答  
第一部「効用と無用のあいだ」  
〈おしゃべり〉の効用  
講演者：大浦 康介
- ・日独ジョイントレクチャー  
2016年12月20日  
於 京都大学吉田国際交流会館南講義室2  
明治時代、日本語は西洋文学をどのように受入てき  
たか：“Max und Moritz” とローマ字訳『Wampaku  
monogatari』を例に  
講演者：(日本学術振興会外国人招へい研究者/  
人文科学研究所招へい外国人学者)  
AROKAY Judit  
解説：イリナ・ホルカ  
辞書作成の効用 — 語義を求めて  
講演者：富谷 至  
〈転がる石〉の効用 — 三つの研究所を巡って  
講演者：山室 信一
- ・合同シンポジウム 2017  
2017年1月20日  
第二部「今こそ、人文学について語ろう」  
鼎談

## 人 文 学 報

- 司会：武田 時昌 受入教員 富谷教授  
期間 9月14日～12月13日
- ・第12回 TOKYO 漢籍 SEMINAR  
2017年3月18日  
於 一橋大学一橋講堂中会議場  
漢籍の遙かな旅路 — 出版・流通・収蔵の諸相 —  
司会：古勝 隆一 (文化連関研究客員部門)  
挨拶：稲葉 穰 受入教員 富谷教授  
モンゴル時代の書物の道 期間 12月15日～2017年3月14日  
講演者：宮 紀子 受入教員 富谷教授  
明末の宣教師が出版した漢籍とキリシタン版 巫 仁恕 中央研究院近代史研究所研究員  
講演者：(京都大学文学研究科教授) 中砂 明德 19世紀後半中国の地域的消費と社会變遷：同治  
漢籍購入の旅 — 朝鮮後期知識人たちの中国旅行記 期四川省巴県を中心に  
をひもとく (文化生成研究客員部門)  
受入教員 村上准教授  
講演者：矢木 毅 期間 2017年2月1日～2017年4月30日

## 招へい研究員

- ・余 欣 復旦大学歴史学系教授  
中世術数学の形成と日本の展開  
(文化生成研究客員部門)  
受入教員 武田教授  
期間 4月20日～7月19日
- ・JAMI, Catherine Florence The National Center  
for scientific Research, Research Director  
梅文鼎の数学研究と和算への影響  
(文化連関研究客員部門)  
受入教員 武田教授  
期間 6月19日～9月18日
- ・OTMAZGIN, Nissim ヘブライ大学人文学部准  
教授  
地政学とソフトパワー：東南アジアにおける日本の  
文化政策の100年  
(文化生成研究客員部門)  
受入教員 田中教授  
期間 7月11日～2017年1月10日
- ・WAHLQUIST, Håkan 王立科学アカデミー  
スウェン・ヘディン財団常務理事  
スウェン・ヘディンと京都  
(文化連関研究客員部門)

## 招へい外国人学者

- ・鄭 雅如 中央研究院歴史語言研究所助研究員  
比較の視点からみた魏晉南北朝期皇后・皇太后の  
国家体制における位置：五礼を中心とした考察  
受入教員 富谷教授  
期間 4月9日～4月23日
- ・趙 立新 国立暨南国際大学歴史学系助理教授  
石刻史料にみえる北朝宗室の官歴について  
受入教員 富谷教授  
期間 4月9日～4月23日
- ・堀口 典子 University of Tennessee, Associate  
Professor  
食と記憶の言説 — 日本近代帝国をめぐる  
受入教員 富谷教授  
期間 7月25日～12月31日
- ・周 佳 浙江大学古籍研究所講師  
宋代官銜制度研究 — 墓誌史料からの考察を中心  
に  
受入教員 富谷教授  
期間 8月1日～2017年3月31日
- ・趙 晟佑 ソウル国立大学助教授  
東アジア仏教にみえる末法思想の比較研究  
受入教員 宮宅准教授

彙 報

- 期間 8月1日～2017年7月31日
- ・張 利軍 東北師範大学歴史文化学院副教授  
夏商周国家構造の考古学研究  
受入教員 岡村教授
  - 期間 9月20日～2017年9月19日
  - ・張 忠焯 中国人民大学歴史系副教授  
秦漢時代の法律認識 — 経学・讖緯・術数からみた —  
受入教員 宮宅准教授
  - 期間 10月1日～2017年9月30日
  - ・AROKAY, Judit ハイデルベルグ大学日本学研究所教授  
日本前近代の文字テキストのデジタル・マッピングとデジタル注釈  
受入教員 大浦教授
  - 期間 11月15日～2017年1月13日
  - ・陳 偉 武漢大学歴史学院教授  
秦代出土文字史料の研究  
受入教員 宮宅准教授
  - 期間 11月17日～12月4日
  - ・劉 雅君 上海大学社会科学学院副教授  
魏晋南北朝の外交史研究  
受入教員 富谷教授
  - 期間 12月15日～2017年3月14日
  - ・都 賢喆 延世大学校文科大学史学科教授  
高麗末における明・日本との詩文交流の意義  
受入教員 矢木教授
  - 期間 2017年3月16日～2018年2月28日
- ## 外国人共同研究者
- ・Scherrmann, Sylke Ulrike  
青島旧蔵ドイツ語文献中の法制関係資料の調査  
受入教員 岩井教授  
期間 2012年4月1日～2017年3月31日（継続）
  - ・TAJAN, Nicolas Pierre  
トラウマと文明 — 「傷」の歴史からみた人類  
受入教員 立木准教授  
期間 2015年4月1日～2017年3月31日（継続）
  - ・鄭 琮樞 韓国映像資料院韓国映画史研究所専任  
研究員・慶熙大学演劇映画学科兼任教授  
植民地近代の日本・朝鮮映画交渉に関する歴史的研究  
受入教員 高木教授  
期間 2014年11月24日～11月23日（継続）
  - ・李 周炫 ソウル国立大学歴史研究所ユソン奨学財団奨学生  
秦漢時代における国家の市場管理  
受入教員 宮宅准教授  
期間 8月30日～2017年5月31日
  - ・TAN Delfinn Sweimay Nanyang Technological University PhD candidate  
日本とシンガポールにおける鯉と装飾魚養殖の科学史  
受入教員 瀬戸口准教授  
期間 9月14日～2017年1月15日
  - ・ライル・デ・スーザ ロンドン大学パーベック准講師  
海外日系人の文学とディアスポラ・アイデンティティ  
受入教員 竹沢教授  
期間 9月1日～2018年8月31日（継続）
  - ・張 俐盈 中央研究院中国文哲研究所院級博士後研究員  
明代詩学と文化传播を通して見た李白  
受入教員 永田准教授  
期間 7月30日～9月3日
  - ・PAPAZIAN, Frederic フランス国立科学研究所センター科学史研究ラボ特任ソフトウェア技術者  
『百科全書』デジタル共同批評校訂版（ENCRRE）構築のための技術開発  
受入教員 王寺准教授  
期間 2017年2月20日～2017年5月13日  
受託研究員
  - ・石 立善 上海師範大学哲学学院教授  
日本所蔵漢籍古抄本に関する総合的研究  
受入教員 古勝准教授  
期間 2017年3月1日～2017年8月31日

## 外国人研究生

- ・ RUESCH, Markus  
親鸞論～救済論と生～に関する研究  
受入教員 大浦教授  
期間 2015年4月1日～2017年3月31日（継続）
- ・ 梁 鎮海  
明清交替期の地域社会：自己文書の視角から  
受入教員 岩井教授  
期間 4月1日～2018年3月31日（継続）

## 出 版 物

### 紀要

- ・ 東方学報 91冊（紀要第180冊）  
2016年12月20日刊
- ・ 東洋学文献類目 2014年度  
2017年2月10日刊
- ・ 人文学報 第109号（紀要第180冊）  
2016年7月30日刊
- ・ ZINBUN number47  
2017年3月刊
- ・ 人文研アカデミーの10年  
2017年3月15日

## 研究報告その他

- ・ 所報人文 第63号  
2016年6月30日刊
- ・ 東方学資料叢刊 第22冊 朝鮮本十選 矢木毅編  
2016年8月5日刊
- ・ 近現代中国における社会経済制度の再編 村上衛  
2016年9月30日刊
- ・ 共同研究資料叢刊 第9号 京都大学人文科学研究所所蔵 中川文庫貴重書目録 王寺賢太  
2016年11月10日刊
- ・ センター研究年報2016  
2016年12月31日
- ・ 東方文化研究の記憶と遺産：合同シンポジウム2017  
2017年1月20日刊
- ・ 京大人文研セミナー〈6〉『目録学に親しむー漢籍を知る手引き』  
2017年3月刊行
- ・ 日本・中国・台湾・香港・韓国の常用漢字と漢字コード 安岡孝一・安岡素子  
2017年3月1日刊
- ・ 古典解釈の東アジア的展開 京都大学人文科学研究所 藤井淳編  
2017年3月17日刊
- ・ フェティシズム研究 第3巻 侵犯する身体 田中雅一編  
2017年3月31日刊